令和7年度

# 研 究 集 録

神奈川県小学校教育研究会　社会科研究部会

# 目次

**1 はじめに**

神奈川県小学校教育研究会社会科研究部会長　横浜市立元石川小学校　　野間　義晴　校長　1

**2 夏季学年別研修会実践提案資料**

**◇3学年部会**

「わたしたちのまちのお店～地域のみんなが買い物に行くＴストアＴ店～」

横浜市立鴨志田第一学校　　小池　智宏　教諭　2

「店ではたらく人と仕事～見つけた！スーパーマーケットの工夫や努力！～」

川崎市立鷺沼小校　　中嶋　一也　教諭　9

**◇4学年部会**

「わたしたちのごみのゆくえ

～ヨコハマプラ５.３計画の実現に向けた横浜市資源循環局の取り組みを追って～」

横浜市立稲荷台小学校　　戸川　真理子　教諭　17

「「わたしたちの県のまちづくり」～歴史のあるまち小田原市～」

横須賀市立田戸小学校　　木村　亮　教諭　24

**◇5学年部会**

「未来を支える食料生産～福島県いわき市の米づくりから考える日本の農業～」

横浜市立駒岡小学校　　能登　清仁　教諭　31

「くらしと産業を変える情報通信技術」

相模原市立淵野辺東小学校　　池上　順也　教諭　39

**◇6学年部会**

「全国統一への動き」

大和市立林間小学校　　古本　健優　教諭　46

「幕府の政治と人々の暮らし～太平の世を作った江戸幕府～」

川崎市立東大島小学校　　市村　和那　教諭　53

**3 神奈川県小学校教育研究会 社会科研究部会授業研究会 川崎地区大会報告**　60

**4 神奈川県小学校教育研究会 社会科研究部会授業研究会 中央大会川崎大会報告**　62

**5 令和7年度 部会長・担当校長教頭名簿**　64

（所属校は令和７年度のものです。）

# 大切なことを大切にする今年度の研究活動

野間　義晴

本年度の研究活動を振り返ると、感染症防止対応からの制約が解かれて数年を経て、社会科研究がようやく本来の姿を取り戻しつつあることを、改めて実感する一年となりました。５月の総会には各地区の先生方が参集し、活動方針を確認し合うことができたことは、私たちの研究の確かな再始動を象徴する出来事であったと思います。

今年度は、令和 11 年 2 月に開催する全小社神奈川大会に向けて、各地区の部会長の先生方とともに、より明確な見通しをもって準備を進める年ともなりました。その過程で、地区を越えて対面で語り合いながら研究を進めることの価値を改めて共有できました。同時に、先生方の負担を軽減しつつ質を高める方法を模索し、研究会の「大切なもの」を確かに支える土台となっています。

8 月には、横浜市立日枝小学校を会場として、各地区から多様な実践提案が行われました。午後には文部科学省教科調査官・小倉勝登先生より、次期学習指導要領の方向性を見据えた社会科教育の視点について、明快かつ示唆に富むご講演を賜りました。社会科の役割への期待が高まる中、子どもたちに何を保障し、どのように人生の舵取りをする力を育てていくのか、私たち社会科に求められる責任の重さと意義を改めて胸に刻む機会となりました。

授業研究については、今年度川崎市内 4 校を会場として、多くの参会者とともに授業の深まりを共有することができました。地域や学校の実情を生かした多彩な授業が展開され、互いの学びを開き合う時間は、次年度以降の研究の確かな基盤を築くものとなりました。さらに、2 月の県中央大会・川崎大会では、川崎・相模原両地区から、研究テーマに即したオリジナリティある実践が報告され、会場全体が活気と探究心に満ちた空気に包まれました。

本年度の研究は、県研究主題「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科学習」をいっそう具体的に追究しつつ、来る全小社神奈川大会開催に向けた確かな第一歩ともなりました。この一年の実践記録や運営の足跡は、神奈川県小学校教育研究会社会科研究部会のさらなる発展にとって、確かな礎となるものです。

お届けしています「会報」は年間の会務報告であり、本冊子『集録』は、まさに研究実践の成果を結晶させた事例集です。令和 7 年度の研究を、オール神奈川の力で一層豊かに創り上げていくための道標が、この一冊に込められています。ぜひ手元に置き、じっくりと読み込み、各地区の知恵と挑戦に触れていただければ幸いです。

本年度の歩みを大切にして次年度につなぎ、来る令和 11 年 2 月の全国大会へと確実に実らせていくために、これからも皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

# わたしたちのまちのお店～地域のみんなが買い物に行くＴストアＴ店～

横浜市立鴨志田第一小学校　小池智宏

## １　浜小社研の研修会主題に迫るための視点及び手立て

| | |
|---|---|
| 視点① | 子どもが自ら問いを見いだし、主体的に学び続けることができる単元づくり<br>**地域にある商店を取り上げ、具体的な問いをもつことにつなげる。**<br>学校から歩いて行ける地域のスーパーマーケットＴストアを取り上げる。まち調査で見つけた地域の商店を取り上げることで、この地域に住む人が「Ｔストアに行くときには何を買いに行くのか」「他にもお店はあるけれど、お客さんに来てもらうためにどんな工夫をしているのか」などの具体的な問いから、「単元を見通す学習問題」を子どもとつくっていきたい。<br>**共通の見学体験から、社会的事象の意味等に迫る学習問題に迫る。**<br>子どもたちの実態から買い物をする場所は多様である。そこで、学校から徒歩で行けるＴストアを見学することを通して、実際に見学に行って共通の経験をしたり、買い物に行った家族に話を聞いたりすることができると考える。そこからこの地域のお客さんの願いに応えて、売り上げを高めているＴストアの取り組みへの問いを見いだす姿を期待したい。 |
| 視点② | 個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり<br>**見学や生活経験から、自分なりの考えをもてるようにする。**<br>Ｔストアでは、地域の実情に合わせて商品のサイズを変えている事実から「本気の学習問題」の成立を目指したい。そこから「Ｔストアにはどんなお客さんが多かったかな」「それをすることでどんなお客さんが喜びそうかな」など、見学や家族の買い物の様子と関連付けて自分の考えをもって表現できるようにしたい。<br>**自分の考えと友達の考えを比較・関連付けて考えられるようにする。**<br>個の学びをみとり、意図的な指名と問い返しをしていくことで「友だちの話を聞いたらそういう考えもあった」と気づけるようにしたい。また、社会的事象の意味に迫るために、Ｔストアでは地域の実情に合わせて商品をそろえることで売り上げを高めていることに向けた資料提示を適切なタイミングで行いたい。 |

## ２　単元について

### 単元目標

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、家庭での買い物の実際や販売店での様子を調べて、白地図、文などにまとめ、販売に携わっている人々の仕事の様子と関連付けて考え、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫していることを理解できるようにする。また、調べたことをまとめ、販売に携わっている人々の工夫を表現できるようにする。

### 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の様子を理解している。 | ①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 | ①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
| ②調べたことを白地図や関係図などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。 | ②消費者の願いと販売の仕方を比較・関連づけたり、わかったことを総合したりするなどして販売に携わっている人々の仕事に見られる工夫を考え、表現している。 | |

## 単元構想

【前単元のまち調査】学校の東側の坂の下にはスーパーマーケットＴがある。

わたしたちの家族はふだん、どこで買い物をしているのだろう。

みんないろいろなところで買い物をしているね。中でも、Ｔストアや O など、いろいろなスーパーマーケットに行く人が多いね。スーパーマーケットに行く人が多いのはどうしてだろう

例えば、学校の近くにあるＴストアではどうしているのかな。

**単元を見通す学習問題**

Ｔストア　Ｔ店ではどのようにしてお客さんをあつめているのだろう。

Ｔストア Ｔ店では、お客さんに来てもらうためにどのような工夫をしているのだろう。（計

ねだんが安いのではないかな。

いろいろな商品を置いている。

チラシを見たことがある

Ｔストア Ｔ店ではお客さんに来てもらうためにどのような工夫をしているのだろう。（見

Ｔストア Ｔ店のくふうをふりかえろう。

セール商品はねだんが安いのが分かるように大きく書いてあった。

商品がたくさんあった。牛乳だけでもたくさんの種類があった。

チラシやポイントカードなどでお客さんが買い物に来てくれるようにしていた。

店員さんが大きな包丁でスイカをたくさん切っているのを見せてもらったよ。

店員さんは私たちがいる間、ずっとスイカを切っていたよ。
大変そうなのに、どうしてそういう売り方をしているんだろう。

**本気の学習問題**

Ｔストア Ｔ店ではどうして
スイカをいろいろな大きさに切ってはんばいしているのだろう。

Ｔストア Ｔ店では、家族の人数に合わせて商品を揃えるようにしているんだね。

キャベツやお魚も同じ売り方だ。

**店長Ｍさんの話**
**スイカをいろいろな切り方をしているのは、いろいろな人数の家があるからです。家族が多い人はスイカを一玉買っていく人もいますし、一人暮らしのひとは小さいダイスカットのパックを買っていくことが多いです。**

Ｔストア Ｔ店の商品はどこから運ばれてくるのだろ
ー

お店の仕事についてまとめよう。

　地域の販売の仕事をしている人は、品ぞろえをよくしたり、ねだんを見やすくしたりして、お客さんがたくさん来てくれるように工夫して、売り上げを高めている。Ｔストア Ｔ店では地域のお客さんがほしいものを置くことで、地域の人に来てもらえるようにしているんだね。

## 指導評価計画（全９時間）

| | ○主な学習活動　　・学習内容 | 資料(資)　手立て(◎)　評価(◆) |
|---|---|---|
| 1 | わたしたちの家族はふだん、どこで買い物をしているのだろう<br>○自分の家の買い物の様子を振り返り、買い物をした場所と理由を出し合う。<br>・家族がよく買い物をする場所や買い物の工夫など消費者の願い<br>・地域には多数の商店があること<br>単元を見通す学習問題<br>Ｔストア Ｔ店ではどのような工夫をしているのだろう。 | (資)第一単元で使用した地図<br>◎商店が多数あることに気付けるよう、商店の種類別に板書する。<br>◎まち調査の地図を掲示し、まちにあるＴストア T 店に目を向けられるようにする。<br>◆発言内容から、「家庭での買い物の様子から販売の仕事について問いを見い出しているか」を評価する。＜思①＞ |
| 2 | Ｔ ストア Ｔ 店ではお客さんに来てもらうためにどのような工夫をしているのだろ<br>○地域のスーパーマーケット Ｔ ストア Ｔ 店を例に、どのような工夫をして集客して売り上げを高めているかを予想し、学習・見学計画を立てる。<br>・商品の陳列の工夫<br>・価格の表示<br>・商品の品ぞろえ<br>・配達サービスなど | ◎価格に注目した発言が出たとき、「価格は安くすればいいのだろうか」と全体に問い返し、商店の仕事は売り上げを高めるように行われていることに気付けるようにしたい。<br>◆ノートへの記述内容から、「スーパーマーケットの販売の工夫について予想を立てているか」を評価する。＜態①＞ |
| 3・4 | Ｔストア Ｔ店では、どのような工夫をしているのだろう。（見学）<br>○地域のスーパーマーケット Ｔ ストア Ｔ 店を見学し、集客の工夫について調べる。<br>・商品の陳列の工夫<br>・価格の表示<br>・商品の品ぞろえ<br>・店頭チラシ<br>・ポイントカード<br>など | ◎見学で確かめたいことを中心としつつ、実際に行ってみて気が付いた工夫を同時にメモできるよう、ワークシートを用意する。<br>◆ ワークシートへの記述内容から、「スーパーマーケット T ストア T 店の販売の工夫について、必要な情報を集めることができているか」を評価する。＜知①＞ |
| 5 | スーパーマーケットＴストア　Ｔ店の工夫をふりかえろう<br>○スーパーマーケット T ストア T 店の見学で見つけた販売の工夫について話し合う。<br>・商品の陳列の工夫<br>・価格の表示<br>・商品の品ぞろえ<br>・店頭チラシ<br>・ポイントカード<br>など<br>○単元を見通す学習問題を振り返り、調べた結果出てきた疑問に思うことを出し合い、焦点化する。 | ◎消費者の願いに応じた販売の工夫が多数あったことに気が付けるよう、視点ごとに板書をする。<br>【資】店内の見取り図<br>◆ ノートへの記述内容から、「スーパーマーケット T ストア T 店の販売の工夫について、集めた情報から、販売に携わっている人の様子について理解しているか」を評価する。＜知①＞<br>◆発言から「予想や学習計画を振り返り、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしているか」を評価する。〈態①〉 |

| | ○主な学習活動　　・学習内容 | ◎手立て　＜評価＞　【資】主な資料 |
|---|---|---|
| 6 | 本気の学習問題<br>スーパーマーケットＴストアＴ店では、どうしていいものをいい値段で販売することを大切にしているのだろう。<br><br>○スーパーマーケットＴストアでは品質のよいものを適正な価格で販売しようとしている理由について話し合う。<br>・近隣に住む人の家族構成の変化など、消費者のニーズに合わせた商品展開 | ◎スーパーマーケットＴストアＴ店が品質のよい製品を適切な価格で販売しようとしている理由と買い物に来る地域の人の需要とを関連づけて発言できるよう、問い返しをする。<br><br>◎一人ひとりの考えたことを生かした協働的な学びになるよう、事前に考えをみとり、座席表を作成する。必要に応じて意図的な指名を行う。<br>【資】副店長さんの話<br><br>◆発言、ノート記述から「消費者の願いと販売の工夫を関連付けて、販売に携わっている人の仕事にみられる工夫を考え、表現しているか」を評価する。＜思②＞ |
| 7 | スーパーマーケットＴストアＴ店で販売される商品はどこから来るのだろう。<br><br>○扱っている商品の産地を地図にまとめる。<br>・商品の仕入れ先の名称と位置 | 【資】商品の産地<br><br>◆ノートへの記述内容から、「他地域や外国との関わりなどについて調査し、商品の産地や仕入れ先の名称と位置について理解しているか」を評価する。＜知①＞ |
| 8 | お店の仕事についてまとめよう。<br><br>○地域に見られる販売の仕事についてまとめる。<br>・スーパーマーケットＴストアＴ店や他の商店は消費者の願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して行われていること | ◆ノートへの記述内容から、「販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解しているか」を評価する。＜知②＞ |

## ３　本時について【修正案】

### 本時目標

| |
|---|
| 地域にあるスーパーマーケットＴストアＴ店がスイカを様々な大きさにカットして販売している理由について、見学して調べたことや家族の買い物経験などを基に話し合うことを通して、地域の消費者の願いと販売の工夫を関連付けて考えることができるようにする。 |

### 本時展開案（６／８）

| ○学習活動　　・予想される児童の反応 | 資料【資】　手立て(◎) |
|---|---|
| スーパーマーケットＴストアＴ店では、どうしてスイカをいろいろな大きさに切って販売しているのだろう。 | |
| ○学習問題について話し合う。<br>・ちょっと食べたい人もいるし、一気に食べたい人もいるからいろいろなサイズで売っている。<br>・小さい子どもが食べやすいようにしているのかな<br>・切るのがめんどくさいお客さんもいると思う。そういうお客さんはカットされたものを買うんじゃないかな。 | ◎前時の終わりに子どもがノートにまとめた考えをみとり、必要に応じて意図的に指名をする。<br><br>◎消費者の願いから発言することが多くなることが予想される。商店の売り上げを高める工夫に着目している子どもを指名し、関連付けて考えられるようにしたい。 |
| ○副店長さんの話から、スーパーマーケットＴストアＴ店が家族構成などお客さんに合わせた商品を販売していることを知り、見学で見つけた同様の商品を出し合い、販売の工夫について考える。<br>・家族構成によってかえているんだね<br>・お客さんのほしいサイズで揃えようとしていることが分かった。<br>・キュウリや玉ねぎもいろいろな数で袋に入っていたね。<br>・お肉も大きいサイズから小さいサイズまでそろっていたよ。 | 【資】副店長さんの話<br>→お店が家族構成などお客さんの様子に合わせて様々な切り方をしていること分かる資料から、これらの取り組みが売り上げを高める工夫であることを考えられるようにしたい。 |
| ○学習問題についての話し合ってみての考えをノートに書き、次時への見通しをもつ。<br>・一人暮らしのお客さんや家族の多いお客さんのことを考えて、お店は商品を揃えている。そうすることで、お客さんがたくさん来て売り上げが高まるね。 | ◎お客さんとお店、両方の言葉を入れて書くよう伝えることで、関連付けて自分の考えを表現できるようにしたい。 |

### 評価規準〈思②〉

| |
|---|
| 発言内容やノートへの記述内容から、「地域の消費者の願いと売り上げを高める販売の工夫を関連付けて考え、表現しているか」を評価する。 |

## ５　考察

視点①　子どもが自ら問いを見いだし、主体的に学び続けることができる単元づくり

子どもの問いを生かして、単元を見通す学習問題や学習計画を子どもとつくる。

**地域にある商店を取り上げ、具体的な問いをもつことにつなげる。**

子どもたちの買い物の実態から

たくさん出たけど、行ったことがなくてよくわからないところもある…

地域のスーパーTストアT店

ここは行ったことがある人が多いね。
他にもたくさんお店があるのに、みんなが行ったことがあるのはどうしてかな？

私はあまり行ったことがないけど、どんなものを置いているんだろう？

単元を見通す学習問題

TストアT店にはどうしてたくさんのお客さんがあつまるのだろう。

TストアT店はみんなが一度は行ったことがある地域の商店であることから、「どうして人が集まるのか」「どんなものをおいているのか」と問いをもち、共通の問題とすることができた。

子どもが実感的に学べるように手立てを考える。

**共通の見学体験から、社会的事象の意味等に迫る学習問題をつくる。**

店舗入り口のレイアウトの意図について聞く場面

鮮魚担当の方から力を入れている商品について聞いた場面

「〇〇さんが言っていた」のように、人の名前を挙げて、販売の工夫を話す姿が見られた。
「スイカを切っている人が大変そうだった」姿から新たな問いをもつことができた。
見学・単元を見通す学習問題を振り返ったことで、さらに考えたい「本気の学習問題」につながった。

【〇成果　と　●課題】

〇3 年生の実態から身近なお店で働く人から直接話を聞いて学ぶことは、販売の仕事の工夫について実感的に学ぶことにつながることを改めて感じた。

〇家庭の買い物の場所が非常に多様である実態を踏まえ、地域にあるTストアT店を取り上げたことで、子どもたちは「みんなが行ったことがある場所」と捉え、問いをもつことができた。

●子どもたちにとって切実感がある、この地域の消費者の願いに合わせた販売の工夫とはなんだったか。もっと取材で明らかにできればよかった。

視点②　個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり

自分なりの考えをもてるようにする。

## 見学や生活経験から、自分なりの考えをもてるようにする。

青果の厨房でダイスカットや８分の１にカットされていく様子の見学
↓
実際の売り場に行くと１玉や半分、４分の１など見学した切り方以外の大きさのスイカも陳列されていた。

本気の学習問題

スーパーマーケットＴストアＴ店では、どうしてスイカをいろいろな切り方ではんばいしているのだろう。

前時のふり返りから

生活経験

１２児
そんなに食べきれない人用に小さく切ったりしているのかと思いました。あといっぱい食べる人用にまるごとうっているのなあと思いました。
↓
自分は大きなスイカを食べきれない

見学

A 児
少ししか食べない人もいるから。小食の人もいるから。残してしまうともったいないから。
↓
書くのに時間がかかっていた様子だったため、「どんなお客さんが買うのかな。」とお客さん目線で考えるよう声かけをした。

見学

B 児
スイカを一気に食べたい人もいればちょこちょこ食べたい人もいるから。小さい子は口が小さいから小さい方がいい。食べやすい。大きいスイカは切るのが大変。大きいスイカはごみが出る。いろいろな人に食べてもらうため。
↓
スーパーマーケットにはいろいろな人が来ているという考えからの記述。

生活経験

14 児
片付けがめんどくさい。汁が出て汚れる。皮がごみになる。切るのがめんどくさい。そんな人が買うのではないか
↓
自分がスイカを切るとしたらと考えて記述していた。お客さんにとって便利であるという考えからの記述

**見学したものを基に考えたことで自分なりに考えようとする子どもが多く見られた。**
**具体的な事実をじっくり見たからこそ、自分の感覚やお客さんの目線で考えることができた。**

【○成果　と　●課題】
○自分たちが見た青果の厨房でカットされる様子以上に店頭に並んでいるスイカから、「どうしてこんなに」「ずっと切っているのは大変そうなのに」と考えることにつながった。
○実際にカットしたスイカの大きさを見たことから、具体的なお客さんの姿や自分が切る側だったらと考える姿が見られた。
●本来であれば、子どもたち一人ひとりがどうしてそう考えたのか、対話をしながらその意図を知りたかった。そうすることで、より具体的に自分の考えを表現することにつなげられた。

主題

「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育

学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」

川崎市小学校社会科教育研究会　研究主題

ともに生きる未来を創造し、

よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

単元名　　「店ではたらく人と仕事」

～見つけた！スーパーマーケットの工夫や努力！～

日時　令和７年８月１日（金）

会場　横浜市立日枝小学校

川崎市立鷺沼小学校　中嶋　一也

## 研究主題との関わり

１．県小社の研究テーマ

「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育
学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」

神奈川県小社はこれまで、「人の生き方」や「人の営み」の理解を大切にすることや、「個」を大切にした学習の構成に重点をおき、実践を積み重ねてきた。その中で川崎市でも、社会の仕組みをじっくりと理解するとともに、一人一人が生きる学習をつくり上げることを大切にしてきた。そのためには、子ども一人一人が社会科の授業を通して学びの実感を味わい、確かな理解をもとに社会に参画していこうとする態度を養っていきたいと思っている。

２．川崎市小学校社会科教育研究会研究主題について

**ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習**

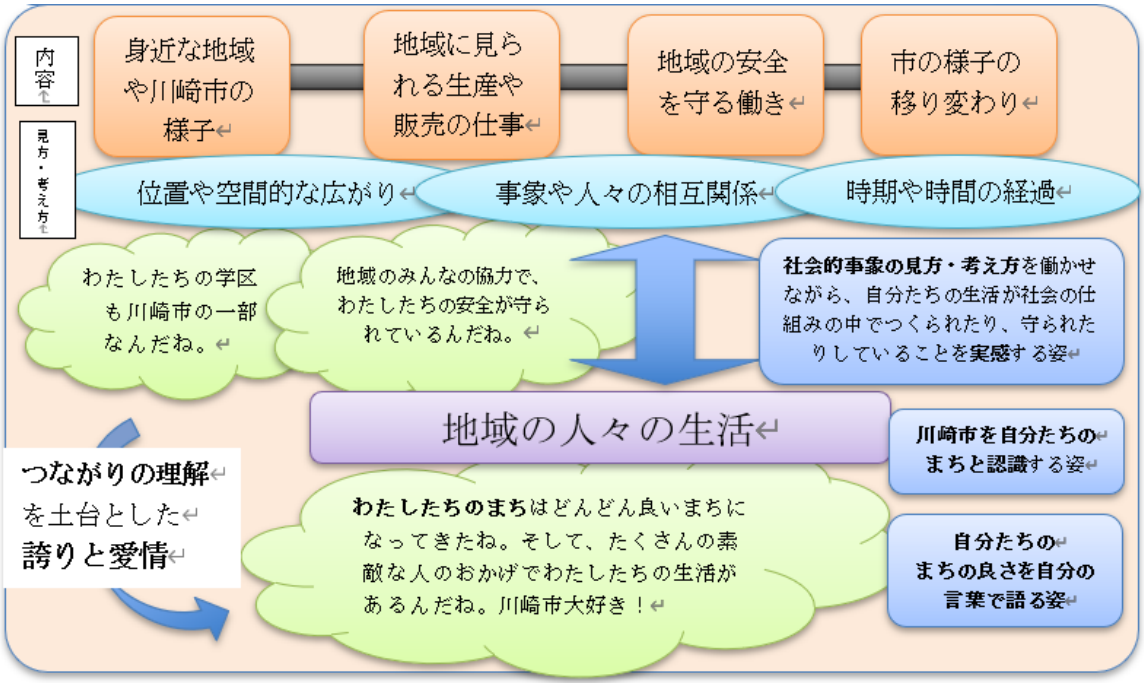
## 研究の視点

１．研究の重点

**資質・能力の育成に向けた学習活動の充実**

２．３年部会の目指す子ども像

地域社会とのつながりを理解し、川崎市への誇りと愛情を育む子



## 研究の視点

①「一人一人が学びを調整する学習活動」

学習問題は全体で共有した上で、解決に向けた過程では一人一人の視点や問いの違いを考慮しながら学習活動を提供することで、多様な他者と協働する良さを感じたり、自らの学習問題を調整したりしながら資質・能力の育成をしていけるのではないかと考えた。

学習問題・・・全体で解決していく問い
視点　・・・学習問題に対する予想や自分の考えを分類してつくった解決の見通し
個人の問い・・・学習問題や視点の中でつくった一人一人の具体的な問い

②「自らの学びを実感するための指導と評価」

「ふり返り」等をもとに、教師が指導に生かしたり、自己評価や相互評価として活用したりすることによって、多様な他者と協働する良さを感じたり、自らの学習を調整したりしながら資質・能力の育成をしていけるのではないかと考えた。

＜「ふり返り」等のポイント＞

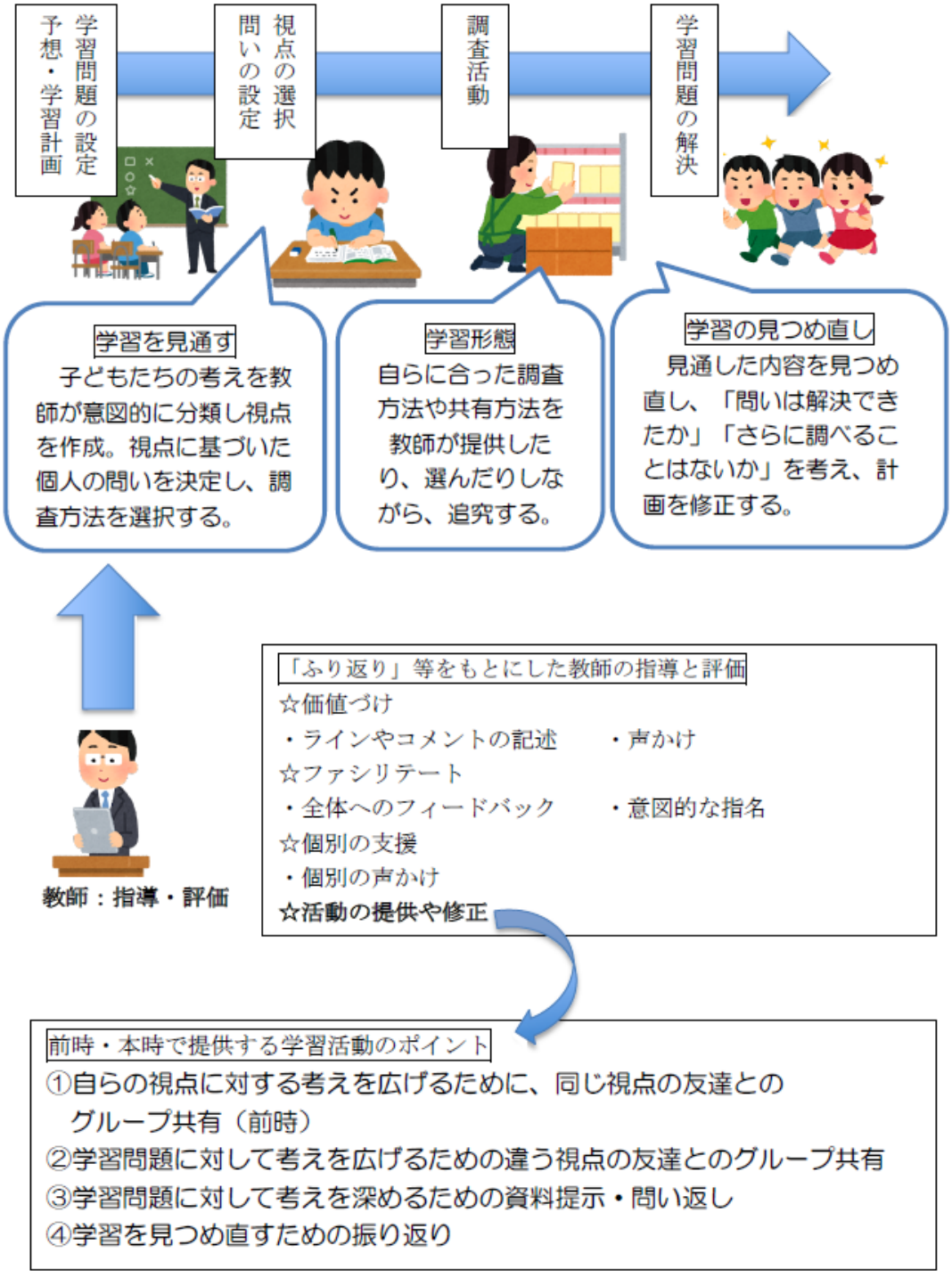
### ふり返りの書き方とタイミング

ふり返りにおいては、一人一人の学びがみえるものを書けるように指導していく。接続詞（「なぜなら」「例えば」「でも」「やっぱり」）を用いることで、根拠となる事実や経験、立場や気持ちがより見えてくるため、用いることができるようにしていく。タイミングに関しては、全時間で行うわけではなく、①見通す場面②見つめ直す場面③振り返る場面④より良い社会を考える場面など限定して行う。また、「価値づけ」を「ふり返り」等でおこなうことで、自ら学習内容や学習方法について、ふり返りをしていけるようにしていく。

### 「価値づけ」ポイント

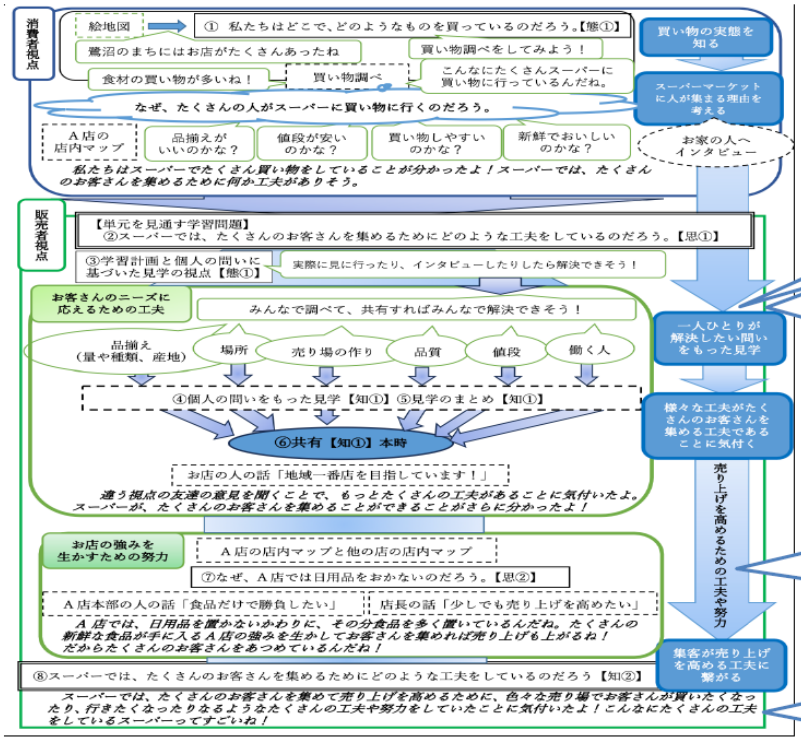
- 疑問や見通し、見直し　「なぜ、…」「（具体的な）〇〇したい」
- 単元前後の比較「～だと思っていたが、…」
- 社会的事象の見方・考え方を働かせる
「〇〇（既習事項）と同じように～」
「〇〇（単元で重要な視点）が大切なのではないか。」
- 地域社会に対する誇りと愛情、社会の一員としての自覚
「〇〇（地域社会に関する社会的事象）がすごい。大好き。」
- 学習方法の良さや課題
「～で調べたい。」「〇〇さんの～に納得して…。」
「～で調べたことで…。」

＜本単元における研究の視点のイメージ図＞



単元名　「店ではたらく人と仕事」　～見つけた！スーパーの工夫や努力～

＜単元構想図のポイント＞




全ての視点を一人で調べるわけではなく、各々「こだわり」がある「視点」や「個人の問い」をもち分担して調査することで、追究や考察の意欲を喚起できるようにした。

「他地域や外国との関わり」の視点については「品揃え」の一つとして調査・共有することで、思考の流れが途切れないようにした。

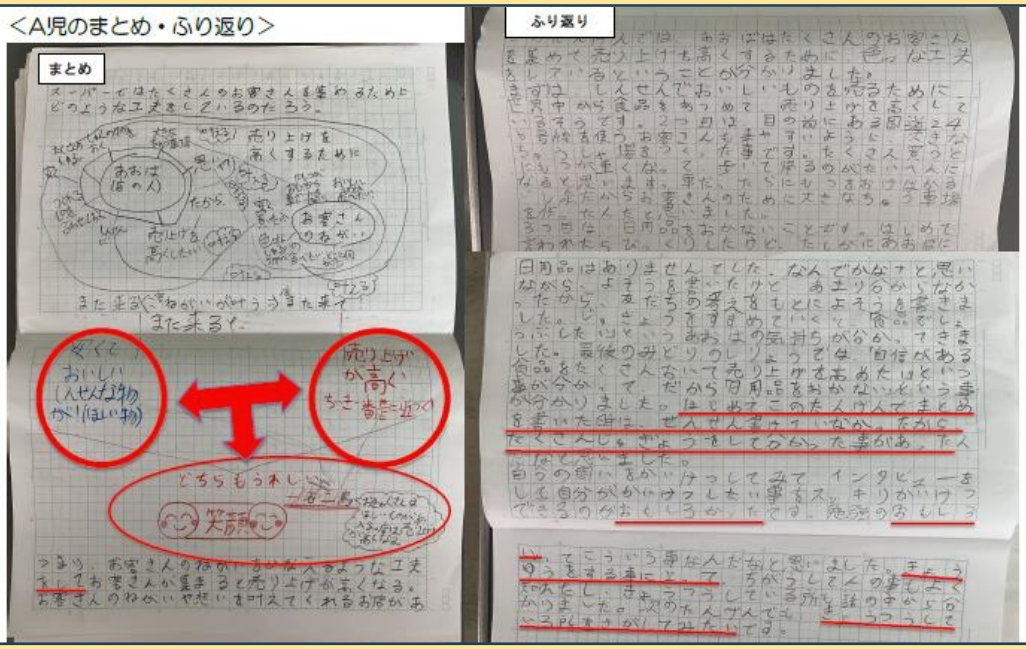
スーパーAの強みである食品に目を向けることで、売り上げを高める工夫や努力をとらえられるようにした。

関係図でまとめることで、社会のしくみを確実に理解できるようにした。

4

〈見学の様子〉

自分の問いを解決するために分担して、インタビューしたり、写真を撮ったりして調査した。




単元のまとめでは関係図にまとめることでスーパーマーケットは消費者の様々なニーズに応え、売り上げを高めていることを立場に分けて整理しまとめることができた。また、ふりかえりでは「単元で学んだこと」「単元前と単元後の自分の変化」「これからに生かしたいこと」の視点で書き、自分の解決したい問いに対して調整しながら学んでいく良さに気付くことができた。

## 研究の成果と今後の課題

研究の視点①「一人一人が学びを調整する学習活動」

研究の視点②「自らの学びを実感するための指導と評価」

○成果　△課題や検討事項　（視点①②との関連）

**学習の見通しをもつ場面**

○集団で学習問題を設定した後に、個々に視点や個人の問いをもてるようにすることで、追究や考察の意欲が高まった。（①）
○活動の見通しをもてるようにしたことで、集団での解決の意欲が高まった。（①）
○学習問題に沿った個人の問いが設定できない子を見とり支援することで、ねらいに沿った見通しをもつことができた。（②）

**調査・共有場面**

○個人の問いに沿った見学を提供することで、見通しをもとにした調査ができた。（①）
○視点の違う児童同士をグループピングしたことで、変容がみられる話し合いができた。（①）
△グループによって、共通点に差異があった。（②）
　A児のいるグループ⇨お客さんのため
　B児のいるグループ⇨全て新鮮
△グループ共有を深める全体共有になっていなかった。（①②）
△全体共有時の、一部児童の問題意識と資料が合っていなかった。（①②）

課題をもとに考える
より良いファシリテートの必要

**単元末の振り返る場面**

○具体と抽象を往還しながら、社会の仕組みの理解をもとに、
　自己の変容を振り返ることができた。（②）
○内容面や方法面の学ぶ良さを実感することができた。（②）
△個々によって、振り返りの仕方に差異があった（②）
A児⇨内容面と方法面の良さや成果を振り返っている
B児⇨方法面の良さや成果を振り返っている

### 課題をもとに考えるより良い教師のファシリテート

| 学習活動 | ・予想される児童の反応 | 支援（○）と評価規準 |
|---|---|---|
| 前時までに、学習問題をもとに、同じ視点をもったグループの友達と見学して分かったことをまとめ、本時では違う視点の友達とグループを組み、伝え合う学習計画が立っている。 | | |
| スーパーでは、たくさんのお客さんを集めるためにどのような工夫をしているのだろう。 | | |
| 1．学習問題と本時の流れを確認する。 | ・前回は同じ視点の友達と見学したことを確認したから、今日は違う視点の友達の意見を聞きたいな。 | ○今まで調べてきたことを確認することができるように見学して分かったことを短冊に書き視点ごとに分け、黒板に掲示する。 |
| 2．グループで見学して分かったことを伝え合う。 | ・ぼくは「**品揃え**」について調べるために、「牛の種類は何種類あるか」を調べてきたよ。値段や量や産地、種類が何種類もあったよ。家族の人数や好みによって選んで買えるからたくさんのお客さんを集めることができると思うよ。<br>・私は、「**売り場の工夫**」について調べるために、「なぜ野菜コーナーは入口にあるのか」を調べたよ。あおばの野菜は安くて量があって、新鮮でおいしいことで有名で、それを求めに買いに来るお客さんを狙って目につきやすい入口の近くに置いているそうです。野菜を買いたいお客さんを買いやすくしたり、買ったお客さんがまた行きたくなったりする工夫があったからたくさんのお客さんを集まると思いました。 | ○調べてきたことを基に、自分の考えを説明することができるように、見学の時のワークシートや撮った写真などを友達に提示して伝えるように事前に確認する。<br>○友達の話を聞いて、新たに分かったことや気付いたことをノートにまとめ、全体に生かすことができるようにする。 |
| 3．全体で話し合い販売者がたくさんのお客さんを集めるために様々な工夫をしていることを確認する。 | ・ぼくは品揃えについて調べたんだけど、品質のことを調べていた○○さんの話を聞いて、お客さんをたくさん集めるために、ほしいと思うものをたくさん用意するところが似ていたよ。<br>・どの工夫もお客さんが欲しいと思ったことを叶えるところがつながるね。<br>お店の人の話「地域一番店を目指しています」 | ○スーパーがお客さんのニーズに応えていることに気付くことができるようにそれぞれの視点での工夫が繋がるお店の取り組みを提示する。 |
| 4．学習問題に対するまとめと学習のふりかえりを書く。 | ・やっぱりね！僕たちが見つけたお店の工夫は本当にやっていたんだね！<br>***スーパーではお客さんのことを考えた、様々な工夫をしているからたくさんのお客さんを集めることができるんだね。***<br>***違う視点の友達の意見を聞くことで、新しい工夫や共通していることにも気付けたよ。今日の授業でさらにたくさんの工夫があることに気付けたよ。*** | 【知―①】<br>発言内容や学習問題に対するまとめの記述内容から、「見学して分かったことついて話し合う活動を通して、販売者はたくさんのお客さんを集めるために様々な工夫をしていることを理解しているか」を評価する。 |

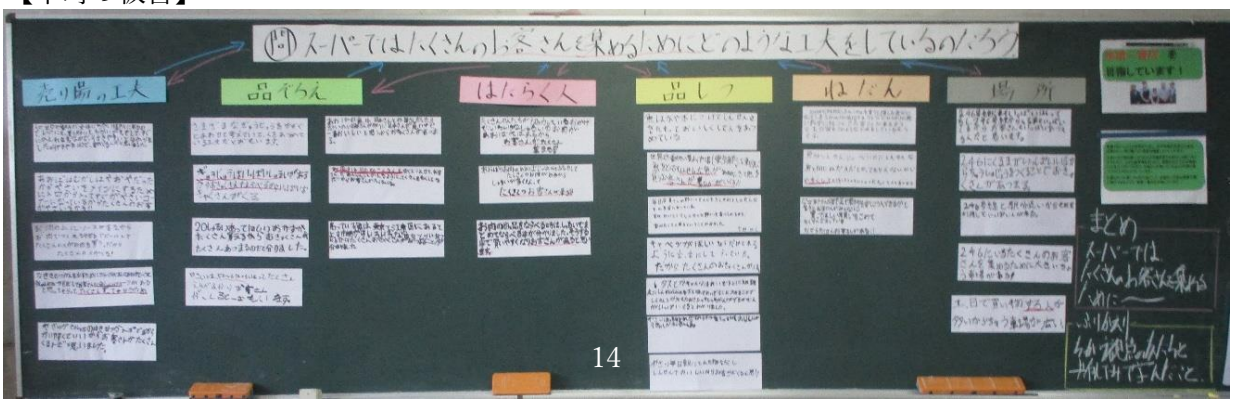
**「板書」**
「お客さんに合った」「また来たい」などのグループで見出したキーワードが残り、視点同士のつながりや学習問題とのつながりがわかるようにする。

**「学習材」**
可視化（付箋やノート、GIGAなど）できる手立てを与えることで、グループ内での共通点が見出せるようにする。

**「声かけ（３の活動）」**
「つながる班ある？」など、毎回問い返さずに進行していく。班ごとの共通点が見えてきたところで、「それぞれのグループから出た意見の共通していることはどんなことだろう？」等と問いかけることで、「板書」をもとに、視点同士のつながりを見出せるようにする。

**「資料提示」**
資料提示前に「みんなはそう言っているけど、お店の人は本当にお客さんを集めるために工夫しているのかな？」とお店の取り組みに着目できるようにする。

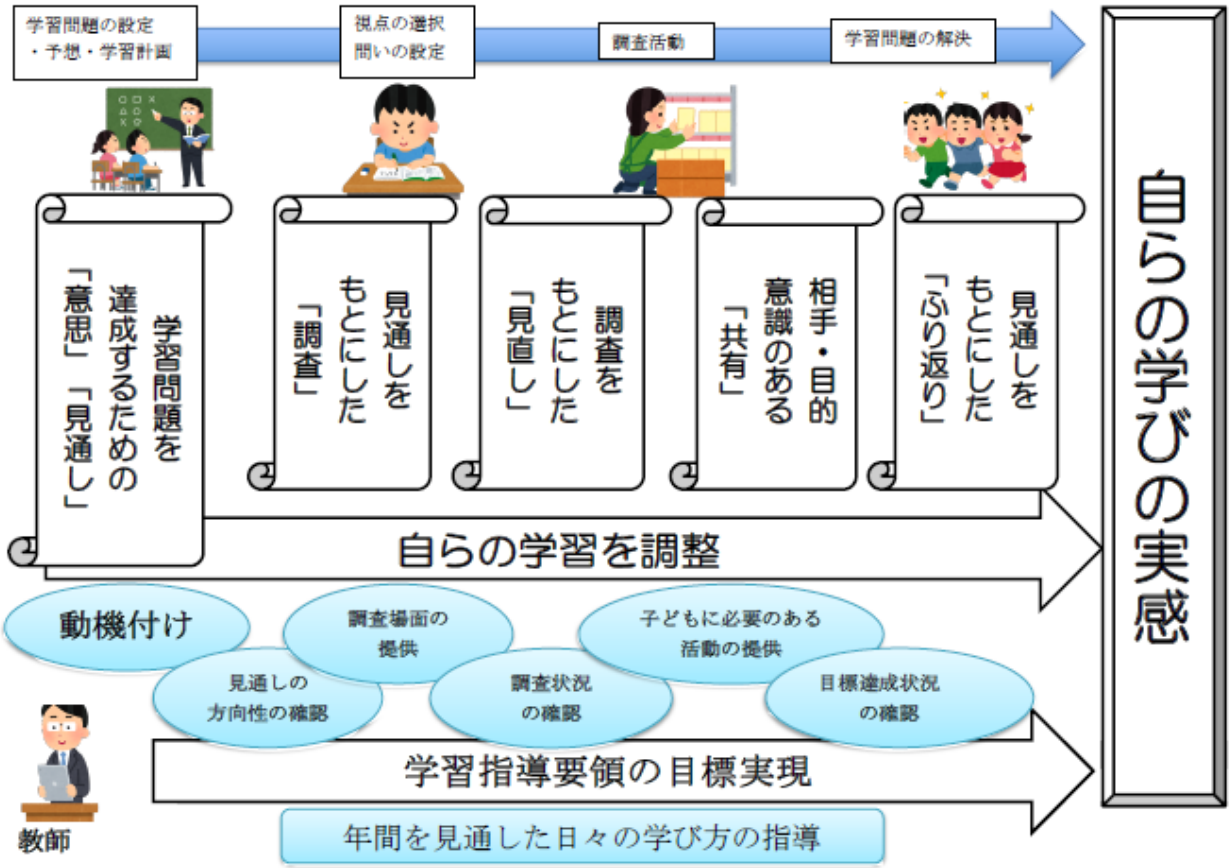
【本時の板書】



## 成果や検討事項、追実践をもとに考えるよりよい学びのあり方

| | 本実践 | 追実践 |
|---|---|---|
| 見通す場面 | ・視点の限定・個人の問いの設定<br><br>⇨視点を限定することで「こだわり」をもって個人の問いを追究する姿が見られた | ・視点は自由・個人の問いの設定<br><br>⇨自ら選択できることで、「自由」に調査することができた。 |
| 調査・共有する場面 | ・調査内容はノートに記入<br>視点別のグループにて共有<br><br>⇨それぞれ「伝えたい」「聞きたい」という思いのもと共有することができた<br> | ・調査内容はオクリンクに提出し、共有相手を選んで自由交流<br><br>⇨調査活動を充実させることで、自分がわからないことがはっきりし、相手や目的を選択しながら共有することができた。<br> |

＜よりよい学びのあり方のイメージ図＞



## 考察

☆個人の問いの設定について

4月からみんなで単元の学習問題を設定し、解決するために全体で計画を立てて視点を見つけ、個人で調べたり、考えたりしたことを共有して解決していく学び方を大切にして学習を進めてきた。

本単元では、初めて単元の学習問題を解決するために個人の問いをもって取り組んできた。個人の問いを設定することで、個人の目的意識や問題意識を強くもって、学習を進めることができた。一方で、個人の問いの解決だけに集中してしまう児童も多くいた。学習を進めていく中で、単元の学習問題を解決するための個人の問いであるという繋がりや関係が薄くなってしまうことがあったので、何のために個人の問いを設定しているか全体や個人で確認する時間や声掛けも常に大切にしてきた。

☆共有方法について

個人の問いについて調べたり、分かったりしたことをICTのスライド機能を活用して、友達と共有した。スライド機能にまとめる際には、見る人がすぐに分かるように、スライド枚数は少なめにして簡潔にしたり、ポイントや大事なところの見せ方を考えたり、手に入れた資料や写真が個人の問いを解決するための物になっているか調整したりすることを確認して取り組んできた。

また、自分の問いと調べて分かったことを全体でも共有できるように、みんなで見るシートも活用した。誰がどんなことを調べているかも全体で確認でき、共有したい人も自分の問いと関連しながら選んで共有する児童もいた。また、教師の児童一人ひとりの見取りにもなり、評価やその後の授業展開にも生かすことができた。

☆自己調整している姿について

個人の問いを設定して取り組んできたからこそ、知りたいから調べたいという気持ちを強くもつことができた。だからこそ、放課後や、休日などの授業時間以外にも自ら足を運び調査してまとめる児童もいた。このように、個人の問いをもつことで、解決に向けて動き出そうとするきっかけになった。また、しっかりと問題意識をもつことができれば、考える幅を広げ販売の学習として自然と一般化する児童もいた。今回の単元で取り扱ったスーパーマーケットはA店であるが、他のスーパーマーケットはどうなっているのか気になり、調べてまとめる児童もいた。このような児童を個人や全体でも価値づけすることで、A店の学習ではなく、販売の学習として一般化することにも繋げることができた。

これからも、子どもたちが様々な社会的事象について自分事として捉えて考えることができるように児童一人ひとりが問題意識をもった問い作りを大切にし、ただ知りたいで終わるのではなく、知りたいからこそ実際に動き出す子を目指していきたい。

# わたしたちのごみのゆくえ～ヨコハマプラ 5.3計画の実現に向けた横浜市資源循環局の取り組みを追って～

横浜市立稲荷台小学校　戸川　真理子

## Ⅰ　研修会主題に迫るための視点及び手立て

| | |
|---|---|
| 視点① | 子どもが自ら問いを見いだし、主体的に学び続けることができる単元づくり<br>① 子どもの実態をみとり、単元を見通す学習問題をつくる場面や、学習計画を立てる場面を設定する。<br>学習問題をつくる場面では、クラス全体で話し合う前にペアや周りの仲間で話し合い、自分たちの考えを共有する場を作る。学習計画を立てる場面では、思考ツールを使って単元の学習問題に対する自分の予想を整理する。また、ロイロノートの共有を使って、クラスの子ども全員が自分の考えを共有することができるようにする。<br>② これまでの子どもの学びをみとり、どの子も主体的に問題解決したくなる「本気の学習問題」をつくる場面を設定する。<br>ヨコハマプラ５.３計画について、あと 5 年で本当に実現可能か市民の立場で計画について賛同したり、疑問を持ったりするなどの自分の意見を出す。その後に、関係機関の人々の思いについて知り、その思いを自分の考えと繋げて、実現させるために今の自分たちができる行動は何か考えられるようにする。 |
| 視点② | 個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり<br>① 子どもの学びをみとり、どの子も学習問題に対する考えを持てるよう適切な支援をする。<br>本単元では、ごみの量に着目して思考する場面が多い。そこで、場面ごとに実際の重さを体感させることを大切にしたい。クラスのみんなで量感の共有をすることで、同じ土俵で問題解決に向かって考えられるようにしたい。<br>② 子どもの考えをみとり、協働的な学びを充実させるための手立てを行う。<br>子ども達の考えについては、ふり返りをもとにした座席表を使って考えの変容をみとる。その方法として、ロイロノートを活用する。具体的には、ロイロノートのカードに児童らのふり返りをもとにした座席表を作成し、それぞれの意見や考えを可視化する。 |

## Ⅱ　単元について

### 単元目標

地域の廃棄物の処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができるようにする。また、人々の健康や生活環境を支える事業について主体的に学習に取り組み、地域の一員としてできることに協力しようとする態度を養うことができるようにする。

### 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ① ごみを処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。 | ① 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。 | ① ごみの処理について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
| ② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 | ② 廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて廃棄物処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 | ②学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちにできることを考えようとしている。 |

## 単元構想

３年生の時、総合の学習で SDGs について学んだよ。その時、リサイクルなどについて学んだよ。

これだけのごみの量を誰がどうやって、どこに持っていくんだろう。

**教室のごみ箱の中身**

**他の教室のごみ箱や、校内のごみステーションの様子**

**稲荷台小学校の1ヶ月のごみの量**

学校の中でのごみの出し方で何か困っていることはないかな？

どうしてプラごみと燃えるゴミで分別するんだろう？
分別しないとどう困るのか

持って行ったごみはどうなるのだろう。

自分の家のごみ箱はどうなっているかな？

**単元を見通す学習問題**

私たちのごみはだれがどのように処理をしているのだろう。

自分の家のごみはどこに出すのかな。

分別にはどんな決まりがあるのかな。

ごみ収集車では、ごみをどうやって、集めるのか

焼却処理施設では、どのようにごみを燃やすのか

燃えるごみ以外のごみはどのように処理しているのかな。

ゴミ置き場に「ごみの収集日」と分別についてのポスターがあったよ。プラスチックごみの分別についてのお知らせもあったよ。

横浜市では、分別が１０種類に別れているんだね。分別した後、再利用をするんだね。

毎日家庭から出るごみを収集車の中に入れて運ぶんだね。１台で２トンも運べるなんてすごい！

資源循環局の人たちが、２４時間体制で温度管理しながら、環境や安全に気を付けて燃やしているんだね。

かん・びん・ペットボトルは再資源化しているよ。プラスチックも、燃やさないで再利用している。

どうして横浜市では、これだけ分別やごみを減らすことに力を入れているのかな。

これまで、Ｇ３０プラン、３Ｒ夢プランなどの取り組みをして、横浜市全体のごみの量が減ったり、ごみの資源化の量が増えたんだね。でも、燃えるごみの中には、まだまだプラスチックが含まれているんだね。

よこはまプラ5．3計画

よこはまプラ５.３計画とは、どのような取り組みなのだろう。

**本気の学習問題**

よこはまプラ５.３計画は本当に実現できるかな。

プラスチックを燃やさないことで、二酸化炭素の削減につながるんだね。１人あたり 5.3kg 燃やすプラスチックを減らすのが目標なんだね。実現できた後も、横浜市民はずっと続けられるのかな。

よこはまプラ５.３計画を実現するために、私たちは今どんなことができるのか

私は、よこはまプラ５.３計画を実現させたいです。なぜなら、今までの資源循環局をはじめとする横浜市の取り組みでごみが減って資源化する量が増えた結果があるからです。みんながよこはまプラ５.３計画のことを知って、資源化の方法を広めることができれば、きっと実現できると思います。

## 指導評価計画（全１２時間）

| | ○主な学習活動　　・学習内容 | 資料(資)　手立て(◎)　評価(◆) |
|---|---|---|
| 1 | 教室には、どんなごみが入っているのかな。<br>○教室のごみ箱の中にどんなごみが入っているのか、調べる。<br>・４年２組の１週間のごみ（燃えるごみ、プラスチックごみ）の重さの計量。<br>・どんなごみが入っているのか調査。 | (資)教室のごみ箱<br>◎子ども達がごみの種類や分別に興味関心がもてるように、「燃えるごみ」のごみ箱「プラスチックごみ」のゴミ箱にそれぞれどのようなごみが入っていたのか、話し合う。また、分別などに課題があるという意見も取り上げる。<br>◆ふり返りの記述から、「ごみを処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集めているか」を評価する。＜思①＞ |
| 2 | 稲荷台小のごみはどれくらいの量なのかな。<br>○稲荷台小学校の１ヶ月、１年間のごみの量についての予想。<br>・技術員さんから聞いた稲荷台小の１ヶ月分のごみの量の確認。<br>・１年間のごみの量が教室何個分になるか予想。<br>○大量のごみをどのように処理しているのかなど、疑問を出し合い、「単元を見通す学習問題」を考える。<br>単元を見通す学習問題<br>わたしたちのごみは、どこで、どのように、だれが、何のために処理してくれているのか | (資)１ヶ月、１年間のごみの量の図表<br>◎子ども達が１ヶ月、１年間のごみの量について具体的な量感がわかるように、５kg の重さのごみ袋を用意したり、５kg のごみ袋何個分か可視化したりする。<br>◆発言やふり返りの記述から、「ごみの処理について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている」を評価する。<br>＜態①＞ |
| 3 | わたしたちはどこでどのように何のごみを捨てているのかな。<br>○自分の家の近くのごみステーションについて、調べる。また、どんなごみを捨てているのかについての調査。 | (資)学区の地図や学区内のごみ分別の表。<br>◎子ども達のごみステーションがどこになるのか、学区内の地図を用いて視覚化させる。<br>◆ノートへの記述内容から、「ごみを処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。」を評価する。＜知①＞ |
| 4 | だれがどのようにごみを処理してくれているのかな。<br>○ごみ収集車で回収したごみが、その後どのように処理されていくのかを調べる。 | (資)横浜市資源循環局の動画。環境学習副読本。※見学が延期になったため。<br>◎子ども達が調べた処理の工程がわかる板書をする。<br>◆ノートへの記述内容から、「ごみを処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。」を評価する。＜知①＞ |

| | ○主な学習活動　　・学習内容 | 資料(資)　手立て(◎)　評価(◆) |
|---|---|---|
| 5・6 | 燃えるごみ以外のごみはだれがどのように処理してくれているのかな。<br>○かん・びん・ペットボトルのごみは、どのように処理しているのか調べる。<br>・かん、びん、ペットボトルは燃やさないで、再資源化。<br>○プラスチックごみは、どのように処理しているのか調べる。<br>・今年度からプラスチックのごみの出し方が変わり、再資源化するプラスチックの幅の広がり。 | (資)環境学習副読本。動画。<br>◎子ども達が調べた処理の工程がわかるような板書をする。<br>◆ノートへの記述内容から、「ごみを処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。」を評価する。＜知①＞ |
| 7 | 何のために、リサイクルやリデュースをしているのだろう。<br>○これまでの横浜市のごみの減量に関する取り組みを調べ、今年度から横浜市全区で始まったヨコハマプラ５．３計画について知る。<br>・Ｇ３０プラン、３Ｒ夢プランによって、ごみの量の削減が実現できていること。<br>・ヨコハマプラ５．３計画はあと５年間で燃やすごみに含まれるプラスチックごみを２万トン削減する目標があること。 | (資)Ｇ３０プラン、３Ｒ夢プラン、ヨコハマプラ５.３計画の内容と、実施成果のグラフ。プラスチックごみが、燃えるごみに混ざっている現状課題が分かる表。<br>◎グラフなど、一目で変化が分かる資料を用意することで、視覚的に理解できるようにする。<br>◆ノートへの記述内容から、「調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。」を評価する。＜知②＞ |
| 9<br>本時 | 本気の学習問題<br>よこはまプラ5.3計画は本当に実現できるかな。<br>○ヨコハマプラ 5.3 計画は本当に実現できるのか、今までの学習をもとに話し合う。<br>・資源循環局の取組<br>・先行区の実施の結果の提示 | (資)よこはプラ 5.3 計画の広報や先行区の結果<br>◎資源循環局の方のヨコハマプラ 5.3 計画への思いや考えを示すことで、ヨコハマプラ 5.３計画の役割の大切さに気づかせる。<br>◆発言内容やノートへの記述内容から、「処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。」を評価する。＜思①＞ |
| １０<br>１１ | 資源循環局旭工場を見学しよう<br>○今まで学習したことをもとに、実際に資源循環局でどのようにごみを処理しているのか、見学を通して理解を深める。<br>・資源循環局の取組<br>・焼却の工程の見学 | ◆見学の様子やノートへの記述内容から「ごみを処理する仕組みやその再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。」を評価する。<br>＜知①＞ |
| １２ | よこはまプラ5.3計画を実現するために、私たちにできることは何だろ<br>○燃えるごみに含まれるプラスチックごみを減らすために、自分（自分たち）にできることについて考えたり、選択・判断したりしたことをまとめたりする。<br>・校内での取組<br>・家庭内での取組 | ◆発言内容やノートへの記述内容から、「学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、自らもごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。」を評価する。<br>＜主②＞ |

## Ⅲ　本時について

### 本時目標

ヨコハマプラ５.３計画について、横浜市資源循環局が今まで取り組んできた計画の資料などをもとに話し合うことを通して、人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて廃棄物処理のための事業の果たす役割の大切さを考えることができるようにする。

### 本時展開案（８／１２）

| ○学習活動　　・予想される児童の反応 | 資料(資)　手立て(◎) |
|---|---|
| よこはまプラ５.３計画は本当に実現できるかな。 | |
| ○学習問題について話し合う。<br>・ヨコハマ３R 夢プランでごみと資源の総量を 10%削減することができたので、あと５年で２万トン削減することもできると思う。<br>・毎年、少しずつ資源化の量が多くなっているので、もし実現しなかったとしても、取り組んだ意味はあると思う。<br>・一人５.3kg の量が思ったよりも多く感じられたので、あと５年間でできるか正直不安だ。<br>・お店でビニル袋を有料化するなどの努力をしているから、みんなが努力すればきっとできると思う。 | ◎前時の最後に、5.3kg のプラスチックが入ったごみ袋を一人ひとり持たせて量感を実感させた上で、子ども達がそれぞれの意見をふり返り書く。そのふり返りをもとに板書計画を考える。<br>◎これまでの横浜市の取り組みとその結果や成果が一目で分かるような掲示物を作り、話し合いの根拠として伝えるようにする。<br>（資）横浜Ｇ30 プランやヨコハマ３Ｒ夢プランのごみ量の推移グラフと開始年度と終了年度のごみ量の差の数値を記した掲示物。<br>→時期や時間の経過の視点を働かせながら、横浜市の取組やその成果を根拠に自分の考えを述べられるようにする。 |
| ○資源循環局西事務所の方のインタビューをもとに、話し合う。<br>・資源循環局の人の思いを聞いて、たとえ目標の 5.3kg まで減らせなくても、取り組み続けることがきっと大切だと思った。<br>・２万トンという量や一人 5.3kg の量に、不安を感じたけれど、今までの取り組みの結果や資源循環局の人の考えを聞いて、自分も努力しようと思った。 | ◎資源循環局の方のヨコハマプラ 5.3 計画への思いや考えを示すことで、ヨコハマプラ 5.３計画の役割の大切さに気づかせる。<br>（資）資源循環局の方のインタビュー文<br>→実際に関わっている事業者の思いに触れることで、事象や人々の相互関係について考えられるようにする。 |
| ○「ヨコハマプラ 5.3 計画実現のためにわたしたちにできること」について考え、次時への見通しをもつ。<br>・環境委員会の分別週間に私たちも参加したい。<br>・資源循環局に行ったら、みんなに伝えるためのヒントが見つかるかもしれない。<br>・低学年の子達にも分かるような内容で、ヨコハマプラ５.３計画について伝えたい。 | ◎今の校内のごみ分別の現状や環境委員会の分別週間に関する情報を示したうえで、ヨコハマプラ 5.3 計画を実現したいという思いをもち、実際に行動を起こしたいという思いをもたせる。 |

### 評価規準〈思②〉

発言内容やノートへの記述内容から、「廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて廃棄物処理のための事業の果たす役割を考えているか」を評価する。

# Ⅴ　考察

## 視点①　子どもが自ら問いを見いだし、主体的に学び続けることができる単元づくり

**子どもの実態をみとり、単元を見通す学習問題をつくる場面や、学習計画を立てる場面を設定する。**

成果

**①重さを体感する・量感を共有する活動について**

第２時で稲荷台小学校全体のごみの量を考える前に、５kg のごみ袋を実際にもち、重さを体感する活動を行った。その後、稲荷台小学校の１か月、１年間のごみの量を数値と５kg のごみ袋のイラストで表した。クラスの児童全員が５ｋｇの量感を知ったうえで数値やイラストを見せたことで、ごみの多さに実感がもてた発言が多く見られた。さらに、この学習活動によって「大量のごみをどのように処理しているのか。」という学習問題へと繋がったと考えられる。

このように、重さを体感する・量感を共有する活動は、体験的な活動を通して社会的事象に対して自分ごととして捉えることができる児童らにとって非常に有効であったことが分かった。

**②児童の疑問から出来上がった単元を見通す学習問題について**

単元構想を作成した時点では、単元を見通す学習問題「私たちのごみはだれがどのように処理をしているのだろう。」に設定していた。予想していた通り、児童の発言から「どこで」「どのように」「だれが」という学習問題が出てきた。ところが、ある児童が「『何のために』処理しているのか知りたい。」「『処理してくれているのか』という言い方がいい。」と発言し、周りの児童も「確かに。」「いいね。」との賛同の声があがった。

そこで、単元を見通す学習問題を「私たちのごみはどこでどのようにだれが何のために処理してくれているのかな。」という設定に変更した。教師の予想を上回る学習問題を立てた児童らは、この後の学習が進むごとにこの単元を見通す学習問題を見て、今日は解決できたか、あとは何が解決できていないのか、確認する指標になった。また、「何のために」という学習問題が、本単元の本気の学習問題に行き着くために非常に重要な言葉になった。

課題**単元を見通す学習問題に対する解決の予想で使用した思考ツールの活用について**

児童らと考えた単元を見通す学習問題「私たちのごみはどこでどのようにだれが何のために処理してくれているのかな。」に対する解決の予想を考えた。児童一人一人が自分なりの解決の予想を立てるために、熊手チャートを用いた。（写真）中には注目児達のように熊手チャートを使わず、項目ごとに箇条書きで表す児童もいた。この熊手チャートの活用について、学習の初めだけでなく単元の終わりのふり返りでも活用すべきであった。具体的には、今まで学んだ事を情報整理し、自分の予想と分かったことを比べ、自分の学びがどのように広がったり深まったりしたのか俯瞰するための思考ツールとしても使えた。このように、解決の予想を考えるための情報整理だけでなく、単元のふり返りを行うために活用すれば、児童らはさらに自分の学びがどれだけ広がり深まったのか気付くことができるツールとしても活用できたのではないかと考える。

【写真】　単元を見通す学習問題に対する解決の予想で使用した熊手チャート

**これまでの子どもの学びをみとり、どの子も主体的に問題解決したくなる「本気の学習問題」をつくる場面を設定する。**

成果**「ヨコハマプラ 5.3 計画は『実現できる』か『実現できない』か意見を可視化させたことについて**

ヨコハマプラ５.３計画について調べ、実際に５.３kg のゴミ袋を持った後、本当にあと５年後に実現できるかどうかという発問に対して児童らは多くの反応を見せた。そこで、その反応をホワイトボードで二項対立的に立場を示した。この意見の可視化を行ったことで、自分の意見だけでなく他者の意見を意識しすることができた。前時の授業後には、児童同士で意見を述べ合ったり、まだ貼っていない児童に「どうするの？」などと尋ねたりする様子も見られた。

このように、児童ら自身が学習問題に対して自分ごととして捉える、ツールになったと同時に、周りの児童にも聞くことで、学級全体でこの学習問題に取り組みたくなるような雰囲気をつくるためのきっかけにもなったと考えられる。

**課題横浜市資源循環局の職員による講話など、インタビューだけではない関係機関とのつながり方について**

今回、関係機関と直接つながりがもてる機会が横浜市資源循環局旭工場のみとなった。単元構想の当初は学習の初めに見学して職員の話を聞く予定でいたが、諸事情で単元の最後になったため、学習のまとめで直接話しを聞いたり質問したりすることとなった。取材では、横浜市資源循環局の職員の思いについて聞くことができたが、単元の内容に即した出前教室を行うことで、職員に直接話を聞くことができる機会を設定した方が、よりヨコハマプラ 5.3 計画に対して理解を深めたり、実現できるかどうかより根拠をもって考えたりすることができたのではないかと考えられる。

## 視点②　個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり

**子どもの学びをみとり、どの子も学習問題に対する考えを持てるよう適切な支援をする。**

### 成果 5.3kg のプラスチックごみを用意したことについて

子どもたちはヨコハマプラ 5.３計画のゴミの量(5.３kg)を実際に持つ活動を行なった。あと５年間で燃えるゴミに含まれるプラスチック資源の量を可視化し、量感を知ることで、子どもたちの中で身近に感じられるようになった。子どもたちは目の前のプラスチックのゴミの量を見て「実現できるかできないか。」切実に考えることができた。この切実感が周知されているかということを根拠に自分の立場を考えることもできた。

また、前時にこれまでの横浜市の政策とその成果のグラフ分析を行なった事で、今までの横浜市のごみに関する政策の成果を根拠に自分の考えをもつことができた。

### 課題広報活動に関する資料の使い方について

資源循環局の広報活動の回数やイベント参加数などについて示した時、１３か所のイベントに参加したことや、２年間で 85 回の広報活動について多いか少ないのか分からないという発言があった。このことについて、資料提示した後に、イベントにかける労力の大きさや資源循環局の人たちの努力について考えて話し合う機会をつくっていれば、多いか少ないかではなく、イベントにどれだけ労力を費やしているのかなど関係機関の取組について理解が深めることもできた。

**子どもの考えをみとり、協働的な学びを充実させるための手立てを行う。**

**成果座席表を用いた児童同士の考えをつなげる手立て**

本時では、児童らの意見を繋げ、考えを広げたり深めたりするために座席表に前時のふり返りを記述した。さらに座席表を見て、似たような意見や他の児童の考えにも繋げられそうな意見を整理した。この座席表をもとに指名したことによって、児童らの考えを広げることができた。

# 「わたしたちの県のまちづくり」～歴史のあるまち小田原市～

横須賀市立田戸小学校　木村　亮

## １．研究の視点

視点①人の働きに注目して主体的に解決したくなる教材

まちづくりには、人の働きが関わってくる。横浜市では、県の政治の中心となる県庁の方々の働きや取組、相模原市では合併に向かった市長の思いなど、市民の生活や市全体をよくしようとする人々の思いがあることに気付かせたい。自分達が住んでいない場所であっても、まちへの思いがどのように生かされるのか、追究できる教材を意識して扱っていく。

例えば小田原市には、遠足で行った小田原城がある。市指定文化財にも登録されており、小田原市のシンボルともなっている。また、小田原城では毎月イベントが開催され、市民の憩いの場となっている。小田原城を学びの中心に据えることで小田原城とまちづくりの関係性を考えていきたい。小田原市民や市役所、小田原城で働く人々に話を聞くことで、小田原城に関わる人々の思いを知り、自分達の住む横須賀市にも愛着がもてるようにしたい。

視点②見方・考え方を働かせ、考えを深める学習活動

市の特徴やまちづくりの取組を調べていく中で、自分達が住む横須賀市との比較をすることを意識したい。小田原城のように指定文化財に登録されている場所は横須賀市ではどこなのか、小田原市民のシンボルである小田原城のように、市民の憩いの場となる場所は横須賀市ではどこなのかを子ども達と学習活動の中で確かめていきたい。また、このように学習を進めていくことで、自分達の住む市のまちづくりを改めてとらえ直し、将来の横須賀市がどんなまちになっていたいかという自分自身のまちへの思いをもつことができるように働きかけていきたい。

## ２．単元構想

**2025 年の神奈川の姿**

☆行ってみたい、住んでみたい、
　　人を引きつける魅力あふれる神奈川

☆いのち輝き、誰もが元気で長生きできる神奈川

☆県民総力戦で創る神奈川

かながわグランドデザイン（2012 年策定）より

**2040 年の神奈川の姿**

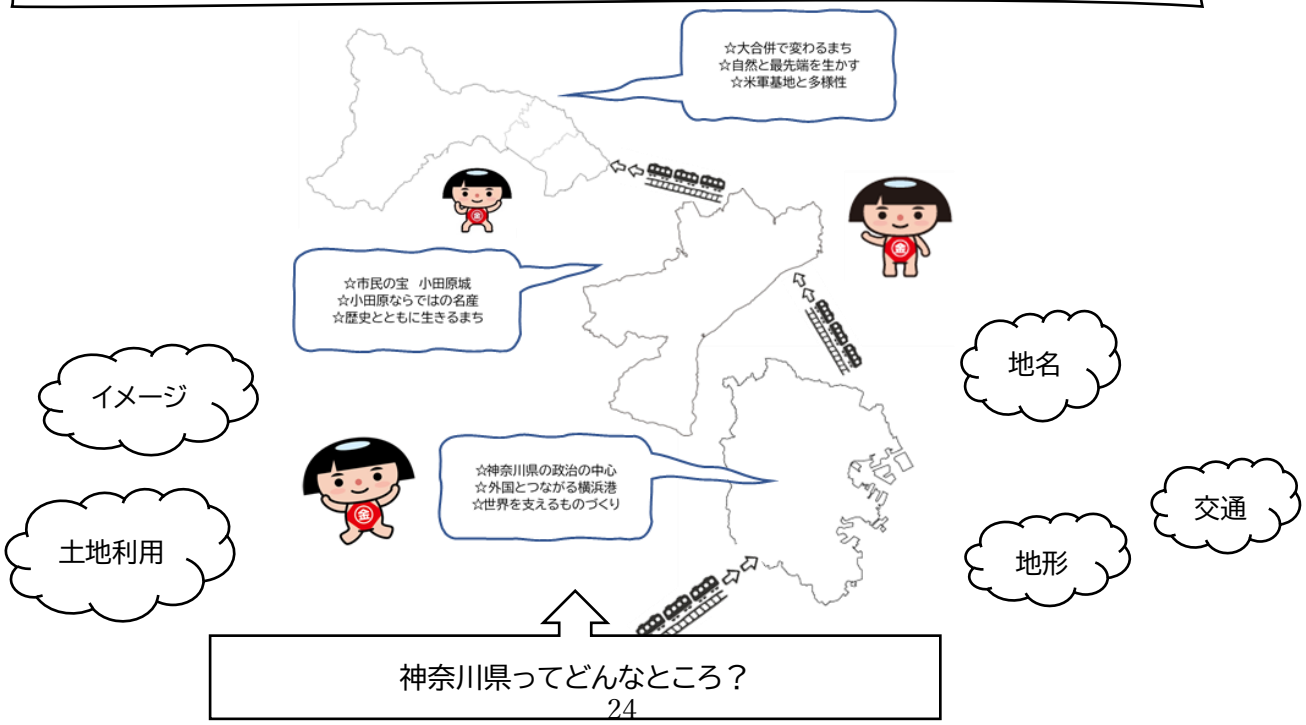
☆誰もが安心して暮らせる神奈川

☆誰もが自らの力を発揮して活躍できる神奈川

☆変化に対応し　持続的に発展する神奈川

新かながわグランドデザイン（2025 年策定）より

神奈川県では、地域の特徴を生かしたまちづくりをしているんだね



## ３．研究の流れ

**県庁所在地があり県の中心である横浜市はどのようなまちづくりをしているのだろう。**

都心につながりやすい交通機関が発達

横浜も横須賀のように国際的につながる市

横浜市は人口が多く、県の中心→県庁

貿易港による外国との交流

豊富な観光スポット

県庁では県民のために

農業もさかん！
全国トップクラスの小松菜の生産量

まちづくりには<u>**中心となる人**</u>がいる→県庁のある横浜市のまちづくりの中心となる人

**黒岩祐治神奈川県知事**

**「新かながわグランドデザイン」**

**→県民の目線に立ち、不安を解消することで安心してくらせるやさしい社会づくりを目指す。**

まちづくりには市に思いをもつ人がいる。小田原市では？

県西地域はあまり行ったことがない。

城や昔ながらの景観

かまぼこ、おいしいよね。

**指定文化財が多い小田原市の人々はどのような思いをもってまちづくりをしているのだろう。**

小田原城は何度か崩れているが、復興への住民の思いがあった。

お城がある城下町が好き。

天守閣が観覧車になってしまった！

小田原城の動物園や遊園地の開設のきっかけは1950年の「小田原子ども文化博覧会」

展示施設やイベントがあると城に行きたくなる。

毎月イベントがあり、楽しめる。

**なぜ、小田原城では多くのイベントを行ったり、新しい展示施設をつくったりしているのだろう。**

小田原市民のシンボルを知ってほしい！

県外の人も来てほしいし、小田原市民の方にも楽しんでほしいと思う。

**◎鈴木十郎市長**（1950 年「小田原子ども文化博覧会」開催時の市長）
「子どもたちに**夢**をあたえてやりたかった。」
「その機会に大人や社会の人たちに、**子どもに対する関心や自覚**をもってもらいたいと考えた。」
**◎小田原城で働く人の話**→様々なイベントを行い、小田原城の歴史や魅力を来てくださった方に伝えることができたらと考えている。
**◎小田原市民の方の話**→小田原城とは、**生活の一部**であり、**楽しい思い出の場所、自慢の場所**

**小田原城や小田原の歴史やすばらしさを伝え、**
**小田原市をもっと好きになってほしいという**
**小田原市の人々の思いがまちづくりに表れている。**

遠足で行った
宮ケ瀬ダムがある

長い間親しまれている
相模の大凧
相模川？

**自然環境が豊かな相模原市の人々はどのようなまちづくりをしているのだろう。**

合併により人口が増えた！

キャンプ座間ではちがう国の人との
交流も大切にしている。
一般の人が利用できる施設や
楽しいイベント開催

橋本駅周辺のまちづくり
リニア新幹線建設中

**◎小川勇夫市長**（津久井町、相模湖町、藤野町、城山町が相模原市に編入合併した時の市長）
「相模原の一番**大切な資源は『人』**であり、**『人こそ市の財産（たから）』**である。」
↓
「市民の**地域に対する愛着心**が魅力と観光資源を作り出し、そのことをうれしく思い、誇りにも感じている。」→地域活性化のイベントには地域の商店街や産業界の若い人たちが中心となる。

県内の市のまちづくりを
通し、自分達の住む横須
賀市や神奈川県の将来を
予想しよう！

## 神奈川未来 MAP

**未来の神奈川県はどんな県になっている**
**だろう？どうなってほしいだろう？**

学んだまちづくりが
今後も生かされてほしい。

# 社会科学習実践報告

指導者　木村　亮

１　単元名　　「わたしたちの県のまちづくり」～歴史のあるまち小田原市～

２　単元目標

・自分たちの県内の特色ある地域について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
・自分たちの県内の特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、文章で記述したり、白地図にまとめたことをもとに説明したりする力を養う。
・自分たちの県内の特色ある地域について、主体的に学習問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

３　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①神奈川県内の市町村の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、神奈川県内の特色ある地域の様子を理解している。<br><br>②神奈川県内の特色ある地域について、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。 | ①神奈川県内の特色ある地域の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。<br><br>②神奈川県内の地域の人々の活動や産業と地域の発展を関連づけたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、表現している。 | ①神奈川県内の特色ある地域について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

４　児童と教材について

本学級の児童は、学習問題から自分達で学習課題を設定し、その解決に向けて粘り強く取り組める子が多い。自分の身近な地域に対して関心をもって、調べる活動や比較したりしながら考えを深める活動についても意欲的に行うことができる。

しかしながら、自分達が調べたことに対して、社会的事象を整理することができる反面、問いを解決していくような話し合いの中で生まれた意見のずれを取り上げ、学びを深めていくことには難しさを感じる児童もいる。ただ自分達が獲得した知識に新しい社会的な事象との関係性を見いだすことができると、深く興味をもち、「もっと調べたい」「もっと知りたい」という前のめりな姿勢にもなることができる。このように、更に追究を続けていくことにより、地域社会に対する思いが深まっていくと考えた。

本単元の学習を通して、自分達の地域と他地域を比べ、共通点などの考えを交流する場面を多く経験させ、子ども達が自分なりの考えをもったり、友だちの考えから、新たな気付きを得て、自分の考えを深めたりできるような姿を目指したい。

5　実践の記録（26 時間扱い）

| 時 | 学習活動 | 評価方法と評価の観点 |
|---|---|---|
| 1 | 神奈川県について知っていることを考え、自分以外の人が持っている神奈川県についてのイメージはどのようなものかを話し合い、調べ、神奈川県はどんなところか予想する。 | ・ノートの記述・発言【主①】 |
| 2・3・4 | 地図や資料集を利用して、神奈川県の地名、地形、交通網を調べ、白地図にまとめ、神奈川県の特色について確かめ、神奈川県はどんなところかを話し合う。<br>神奈川県は、どんなところだろう。 | ・白地図【知①】<br>・ノートの記述【思②】 |
| 5・6 | 地図や様々な資料から、横浜市が県内で１位のものを探し、横浜市の特色について話し合う。<br>神奈川県内で１位のものが多い横浜市の人々はどのようなまちづくりをしているのだろう。 | ・ノートの記述・発言【知①】【思①】 |
| 7・8 | 横浜港の歴史を調べ、外国と横浜のつながりを考える。 | ・ノートの記述・発言【思②】 |
| 9 | 神奈川県庁の機能を調べ、横浜市が神奈川県の政治の中心であり、どんなまちづくりを目指しているかをまとめる。 | ・ノートの記述・発言【知①】【主①】 |
| 10・11 | 小田原市にある指定文化財を調べる。<br>指定文化財が多い小田原市の人々はどのような思いをもってまちづくりをしているのだろう。<br>〇小田原市の指定文化財を調べる<br>→ 小田原市のシンボルである小田原城はどのような思いで残されているのか調べよう。 | ・ノートの記述【知②】 |
| 12・13・14 | 小田原城の保存への取組について調べ、小田原城再建の歴史的な変遷や、保存継承の取組などを知る。<br>〇小田原城の歴史を年表から読み取る。<br>〇城址公園が作られた理由を考える。<br>小田原城の歴史に詳しい人に聞いてみたい。 | （資）<br>年表、小田原城の昔の写真<br>（資）<br>1950 年の小田原市の広報<br>・ノートの記述・発言【知①】 |
| 15<br>本時 | 本時についてを参照 | |
| 16・17 | 小田原市のまちづくりについて分かったことをまとめる。<br>〇小田原市の人々のまちづくりへの思いをまとめる。 | （資）小田原市役所の人の話（紙）<br>・ノートの記述・発言【知①】【主①】 |
| 18・19 | 地図や様々な資料を読み取り、相模原市の自然環境を白地図に表す。<br>自然環境が豊かな相模原市の人々はどのようなまちづくりをしているのだろう。 | ・白地図【知②】 |
| 20・21・22 | 相模原市の自然環境を生かしたまちづくりの取組を調べる。 | ・ノートの記述・発言【知①】 |
| 23・24 | 米軍基地に対する住民の思いを調べ、相模原市のまちづくりについてまとめる。 | ・ノートの記述・発言【知①】【主①】 |
| 25・26 | 神奈川県の特徴をつかみ、自分達が大人になった時の神奈川県の未来予想図を話し合う。 | （資）既習の市のまちづくりをまとめた地図<br>・発言・発表<br>【知②】【主①】 |

4．本時について

（1）本時目標

小田原城の保存や地域を発展させようと取り組む人々の工夫や努力、願いを考え、表現することができる。

（2）本時展開

| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◇教師の支援　（資）　◆評価 |
|---|---|
| ○前時に調べた、小田原城で行われているイベントや新しい展示施設について振り返る。<br>・平成の大改修で新しい展示施設や子どもが体験できる施設が作られたね。<br>・遠足で行った時も、小田原城の中は新しかったし、多くの展示物があったね。<br><br>○本時の学習課題を確認する。 | ◇遠足で小田原市のシンボルである、小田原城を訪れたことを振り返り、SAMURAI 館や NINJYA 館などの子どもが楽しめる施設があったことなどにも触れる。<br>（資）遠足での小田原城の写真、小田原城でのイベントが分かる掲示物 |
| **なぜ、小田原城では多くのイベントを行ったり、新しい展示施設をつくったりしているのだろうか。** | |
| ・みんなに小田原城のことを知ってもらいたいからかな。<br>・再建して守ってきた小田原城をこれからも残していきたいと思っている人がいるからだと思う。<br>・お客さんが来ればお金が入り、市が儲かるから。 | |
| ○資料から、小田原城を基盤として、まちづくりをしている人々の思いを考える。<br>・小田原の人々は小田原城の歴史を大切にして、みんなで保存していく取組をしているね。<br>・小田原城を保存していくことは小田原のまちの発展にもつながっているんだね。<br>・小田原城を見に来る観光客がいるから、小田原駅周辺を開発したのかもしれない。<br>・小田原市を PR する動画やまち歩きができるアプリなどを作って、小田原や小田原城の魅力を感じてもらえるように努力している。 | ◇小田原城の保存や地域の発展への取組の中心となる方々の思いが分かるような資料を提示する。<br>（資）小田原市の HP<br>（資）小田原城総合管理事務所や小田原市役所の方など、小田原市のまちづくりに関わる人の話<br>（資）小田原市民の方の声<br><br>◇自分達の住んでいる横須賀市のまちづくりと比較する問いかけを意識的に行う。 |
| ○調べたことから小田原市の人々はどのようなまちづくりを目指しているかを考える。 | ◇資料で分かったことと、小田原市のまちづくりがどのようにつながるのかという問いかけをする。 |
| **小田原城で多くのイベントが行われたり、新しい展示施設をつくったりしているのは、多くの人々に小田原城や小田原の歴史やすばらしさを伝え、小田原市をもっと好きになってほしいという小田原市の人々の思いがあるからだと考えられる。** | |
| ○本時の振り返りをする。 | ◆小田原城の保存や地域を発展させようと取り組む人々の工夫や努力、願いを考え、表現している。<br>**＜思・判・表＞**（ノート。発言。） |

## 5．考察

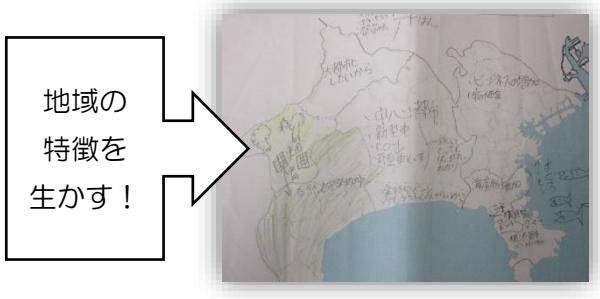
【成果】

**①小田原城を教材にしたことにより、小田原城に込められた市民の思いや工夫を知り、自分達が住む市と照らし合わせて考えることができるようになった。**

今回の実践では遠足で訪れた小田原城を取り上げた。小田原市に行ったことがなかったり、知らなかったりする児童もいた。教師が準備した写真や ICT 端末での調べ学習で終わるのでなく、小田原城や小田原市のまちづくりについて知りたいことや疑問が学習の中で生まれるような問いかけや対話を意識した。そして、自分達が調べたいと思ったことを、小田原城や小田原市役所で働く人、小田原在住の人にメールを通して聞いた。小田原市の方に話を聞く機会があったことで、想像ではない、小田原市民の小田原城に対する本当の思いが知れた。振り返りでは、「小田原城を未来につなげたいという小田原市の人の思いを知ることができた、私も住んでいる横須賀市の中で未来に残していきたいものを考えていきたい。」というように、自分達が住んでいる市と照らし合わせて横須賀市の未来を考える子の姿も見られた。まちづくりには人の思いがあり、思いがあるから、自分の市が好きになれるということにも教材を通して気づくことができた。「人々の協力関係」に目を向けることは、「公民的資質」の育成につながるため、行政側の視点を取り扱ったことは良かったと感じた。

**②他市と自分達の住む市を比較することで、自分事としてとらえ、考えを深めることができた。**

どの市のまちづくりの学習の中でも、必ず自分達の住む横須賀市との共通点や相違点などを確かめる働きかけをした。観光名所や特産品、地形や土地利用など、横須賀市と比べて考える視点を大切にしてきた。単元の最後の神奈川県未来予想図では、「横須賀市に新幹線が開通し、県内外に行き来しやすくなってほしい。」「人口が増え、埋立地が出来て、神奈川県に新たな市が生まれるかもしれない。」というように様々な視点からの未来予想をしていた。他市のまちづくりの取組を横須賀市にも取り入れてみようとする子どもの姿から、他市との比較により、自分達の住む横須賀市の理解も深まっているような記述をしている子どもも見られた。




【課題】

**○県の学習を通して、「県民」としての意識をもたせるための学習過程の工夫**

今回の実践では、まちづくりに対しての「人の思い」を考えることで、まちづくりにそれぞれの市や県全体でどのように取り組んでいたかを中心に置き、それぞれの市の特徴を考えるだけでなく公民的な視点でまちづくりを捉えられるように学習計画を立てた。それにより、公民的な資質・能力をより意識して育もうと考えた。

ただ、相模原市の学習が終わった時に、県全体の未来について話し合わせたのだが、なかなか県全体のまちづくりへの思いには及ばず、個別の市や小地域の未来への話し合いに終始してしまった。人の思いを丁寧に授業では扱ったので、改めて、県のグランドデザインと比べながら考えを深めさせれば、よりよい未来地図が描けたのではないかと考える。子ども達の意識としては、神奈川県民というよりかは、横須賀市民という意識の方が強かったのではないだろうか。３つの市の学習を総合的に結びつけて、県全体の特徴を総合的に考える活動をまとめに行うことが大切であると感じた。

**○「県内の特色ある地域」の選定について**

事例地の選定については、「人々の協力」を考えるには小田原市でよかったと思うが、「地場産業」の部分に関しては浅くなってしまった。どの市（町）を教材化するかも指導要領に戻ることが大切であると感じた。今後はより子どもの学習の実態に合わせて、指導計画の作成や授業の組み立てをより丁寧に行っていきたい。

# 未来を支える食料生産～福島県いわき市の米づくりから考える日本の農業～

横浜市立駒岡小学校　能登　清仁

## 1　研修会主題に迫るための視点及び手立て

| | |
|---|---|
| 視点① | 子どもが自ら問いを見いだし、主体的に学び続けることができる単元づくり<br>農業の課題を意識した「単元を見通す学習問題」づくり<br>ニュースで話題になっている米。一度は目にしたり聞いたりしたことがある言葉「備蓄米」「令和の米騒動」を単元の導入に扱うことで、今日本の米づくりに何が起きているのかに目を向けることができ、日本の農家が抱える課題に興味をもち、主体的に学ぶ土台ができると考えた。お米の価格に着目して、今の価格と 10 年前の価格を比較することで「なぜ」「どうして」を引き出し学習計画につなげることができるようにする。 |
| 視点② | 個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり<br>学習の積み重ねや体験をもとに、子ども一人一人の見取りを大切にした授業づくり<br>学習問題に対する子どもの考えや振り返りをロイロノート・スクールの提出箱でみとったり、子どもの考えを座席表にまとめたりすることで、子ども一人一人の考えを教師がみとるようにする。座席表をクラス全体での話し合うときの意図的指名に活用することで、個の学びを深めることや協働的な学びへとつなげられるようにする。 |

## 2　単元について

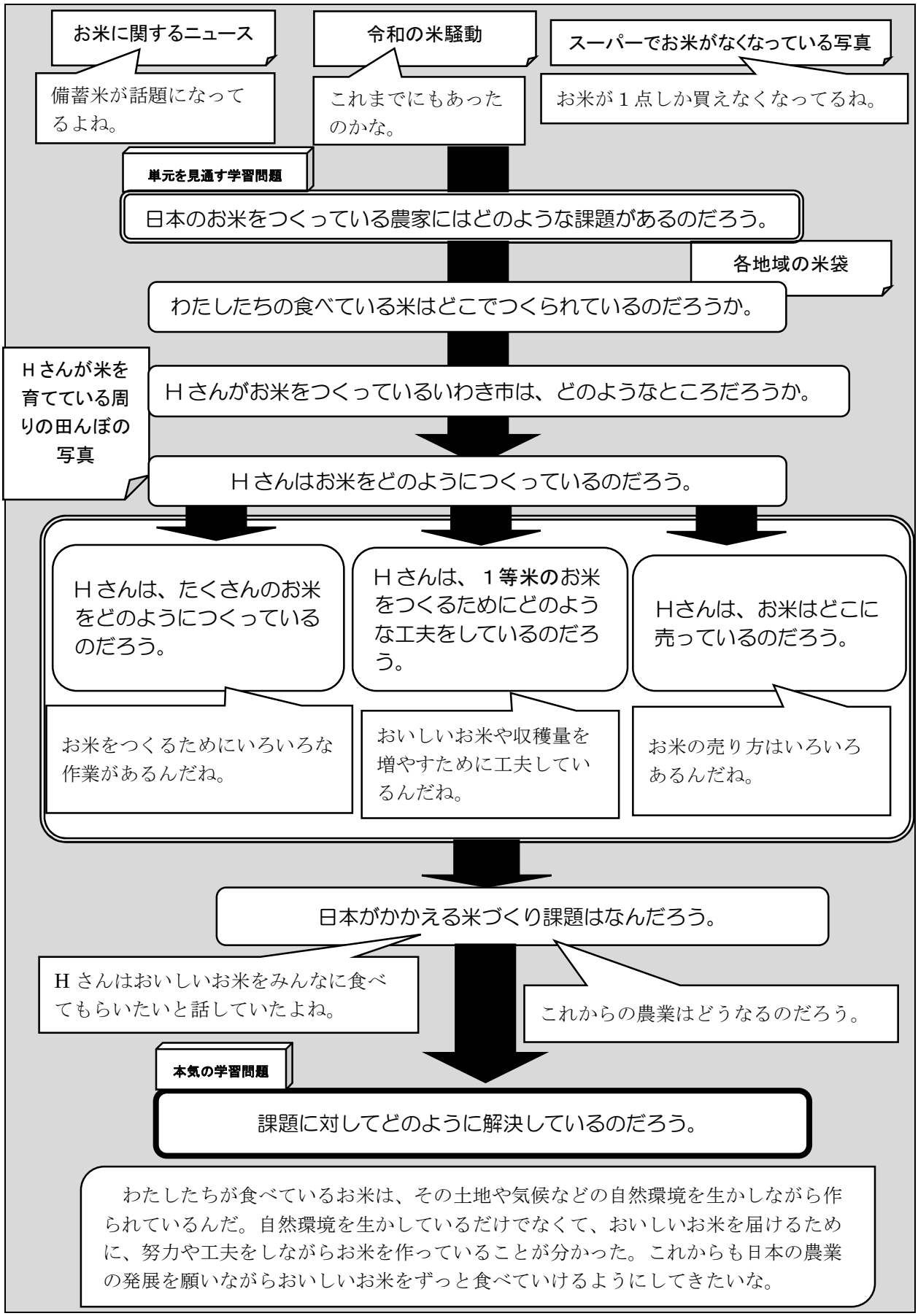
### 単元目標

福島県いわき市の米づくり農家であるＨさんについて調査したり地図などの資料で米づくりに適している自然環境を調べたりしながら、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、日本の食料生産を支えていることを理解できるようにする。また、日本の農業の様子や発展について主体的に学習問題を追究し、これからの食料生産について自分なりに考えようとする態度を養う。

### 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産にかかわる人々の工夫や努力を理解している。 | ①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見いだし、食料生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 | ①我が国の稲作について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
| ②調べたことを白地図や図表などにまとめ、稲作は自然条件を生かして営まれていることや、稲作に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力をしたり販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。 | ②食料生産と国民生活を関連付けて、食料生産にかかわる人々の働きを考えたり、学習したことを基に消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業の発展について考えたりして、適切に表現している。 | ②学習したことを基にこれからの稲作の発展について考えようとしている。 |

## 単元構想


お米に関するニュース
備蓄米が話題になってるよね。
令和の米騒動
これまでにもあったのかな。
スーパーでお米がなくなっている写真
お米が１点しか買えなくなってるね。
単元を見通す学習問題
日本のお米をつくっている農家にはどのような課題があるのだろう。
各地域の米袋
わたしたちの食べている米はどこでつくられているのだろうか。
Ｈさんが米を育てている周りの田んぼの写真
Ｈさんがお米をつくっているいわき市は、どのようなところだろうか。
Ｈさんはお米をどのようにつくっているのだろう。
Ｈさんは、たくさんのお米をどのようにつくっているのだろう。
Ｈさんは、１等米のお米をつくるためにどのような工夫をしているのだろう。
Ｈさんは、お米はどこに売っているのだろう。
お米をつくるためにいろいろな作業があるんだね。
おいしいお米や収穫量を増やすために工夫しているんだね。
お米の売り方はいろいろあるんだね。
日本がかかえる米づくり課題はなんだろう。
Ｈさんはおいしいお米をみんなに食べてもらいたいと話していたよね。
これからの農業はどうなるのだろう。
本気の学習問題
課題に対してどのように解決しているのだろう。
わたしたちが食べているお米は、その土地や気候などの自然環境を生かしながら作られているんだ。自然環境を生かしているだけでなくて、おいしいお米を届けるために、努力や工夫をしながらお米を作っていることが分かった。これからも日本の農業の発展を願いながらおいしいお米をずっと食べていけるようにしてきたいな。

## 指導評価計画（全９時間）

| | ○主な学習活動　　・学習内容 | 資料（資）　手立て（◎）　評価（◆） |
|---|---|---|
| 1 | 今、日本のお米に何が起こっているのだろうか。<br>○お米に関するニュースで使われている言葉やスーパーの米売り場の様子、現在の米の価格と１０年前の価格を比較から農業の課題について話し合い、学習問題を作る。<br>・米の商品が品薄になっていること<br>・価格が上がっていること<br>単元を見通す学習問題<br>日本の米をつくっている農家にはどのような課題があるのだろう。<br>○学習問題に対する予想をもとに、学習計画を立てる。<br>・米づくりに適した自然条件<br>・米づくりについて<br>・米農家の課題について | 【資】備蓄米の記事<br>【資】令和の米騒動<br>【資】米の現在の価格と１０年前の価格<br>◎米に関する現状を知ることで、米づくりの課題へ関心を高める。<br>◆発言やノートの記述内容から、「資料から主体的に予想や学習計画を立てているか」を評価する。＜態①＞ |
| 2 | わたしたちが食べている米はどこで作られているのだろう。<br>○それぞれの家庭で食べている米の産地を出し合い、白地図にまとめたものや都道県別の生産量の傾向から米づくりが盛んな理由を考えたり、調べたりする。<br>・お米には様々な種類（品種）があること<br>・東北や北海道の周辺で米作りが盛んなこと<br>・平らな土地が必要なこと<br>・たくさんの水が必要なこと<br>・夏場の昼夜の気温差なこと | 【資】家庭で食べている米の産地<br>【資】都道府県別の米の生産量<br>【資】米づくりに必要な自然条件<br>◎米の産地を白地図にまとめていくことで、産地の傾向への関心を高める。<br>◆発言やノートの記述内容から、「米づくりと自然条件との関係を資料から読み取りまとめているか」を評価する。＜知①＞ |
| 3 | Ｈさんが米づくりをしているいわき市はどんなところだろう。<br>○Ｈさんが米づくりを行っているいわき市がどのような自然条件なのか自分たちのまちと比べながら調べ話し合う。<br>・いわき市の自然条件<br>・近くを鮫川がながれていること<br>・東北でも比較的暖かい地域なこと<br>・日照時間が長いこと | 【資】Ｈさんの写真<br>【資】Ｈさんの田んぼの写真<br>【資】福島県いわき市の気温・日照時間<br>【資】福島県いわき市の人口や面積<br>◎Ｈさんやいわき市の資料から、問題解決の意欲や関心を高める。<br>◆発言やノートへの記述内容から、「豊かな自然を背景に米づくりが行われていることを理解しているか」を評価する。<br>＜知①＞ |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | Ｈさんは米をどのようにつくっているのだろう。<br>○Ｈさんの米づくりの１年間から、米づくりの工程を調べる。<br>・農事暦から米づくりにはたくさんの工程があること<br>・米をつくるにはたくさんの時間がかかっていること | 【資】Ｈさんの農事暦<br>【資】米づくりの各工程の写真<br>◎農事暦の資料から米づくりの工程を読み取ることができるようにする。<br>◆発言やノートへの記述内容から、「米づくりには複数の工程があり、長い時間をかけて努力や工夫をして、つくっていることを理解しているか」を評価する。<br>＜知①＞ |
| 5 | Ｈさんは、おいしい米をつくるためにどのような工夫をしているのだろう。<br>○Ｈさんの米づくりの様子について農事暦をもとに考える。<br>・稲の植える間隔<br>・水の管理<br>・農薬の散布 | 【資】稲を植える間隔について<br>【資】水の管理の動画<br>【資】ドローンでの農薬散布<br>◎Ｈさんの米づくりの工夫や努力に着目できるようにする。<br>◆発言やノートへの記述内容から、「米づくりの工夫を各種の資料で調べ、必要な情報を読み取り、工夫や努力を理解しているか」を評価する。＜知①＞ |
| 6 | Ｈさんは、収穫した米をどこに売っているのだろう。<br>○Ｈさんの収穫後と教科書の収穫後の流れを比較し、違いについて調べる。<br>・農業協同組合の役割<br>・生産調整<br>・カントリーエレベーター<br>・インターネット販売<br>・米の値段に含まれる費用 | 【資】農業協同組合の役割<br>【資】カントリーエレベーターの仕組み<br>【資】米の値段に含まれる費用の例<br>◎収穫後の流れや農業協同組合の役割について着目できるようにする。<br>◆発言やノートへの記述内容から、「収穫の流れを各種の資料で調べ、必要な情報を読み取り、工夫や努力について理解しているか」を評価する。＜知①＞ |
| 7 | 日本がかかえる米づくりの課題について考えよう。<br>○Ｈさんの米づくりやいわき市の農家の状況から、農業の課題について話し合う。<br>・兼業農家の数<br>・農家で働く人の数の変化<br>・耕作放棄地<br>・田んぼの管理<br>・農家の高齢化 | 【資】いわき市の兼業農家の数<br>【資】農家で働く人の数<br>【資】耕作放棄地の変化<br>◎収穫後の流れや農業協同組合の役割について着目できるようにする。<br>◆発言やノートへの記述内容から、「農業の課題に気付き、主体的に問題の解決ついて考え問いを見出しているか」を評価する。<br>＜思①＞ |

| | | |
|---|---|---|
| 8<br>本時 | 本気の学習問題<br>課題に対してどのように解決しているのだろう。<br>○Ｈさんの米づくりといわき市の取組から、日本の農業の課題解決に向けて話し合う。<br>・兼業農家は地区ごとの人々と協力<br>・兼業農家同士の田んぼの管理 | 【資】いわき市の取組<br>【資】Ｈさんの米づくりの課題解決策<br>【資】ほ場整備<br>【資】農福連携 |
| 9 | これからの日本の農業について考えよう<br>○これまでの学習を振り返り、日本の農業が抱えている課題からこれからの日本の農業について自分の考えをまとめる。 | 【資】日本の農業の課題<br>◎これからの農業について食生活と結び付けて考えられるようにする。<br>◆発言やノートへの記述から、「学習したことを基に、様々な農業の課題に対して、消費者や生産者などの立場から多角的に農業の未来を考えているか」を評価する。<br>＜態②＞ |

## ３　本時について

### 本時目標

日本の農業の課題について、Ｈさんの米づくりやいわき市の取組などが分かる資料などを基に話し合うことを通して、生産者の課題と消費者の課題を関連付けて、日本全体の農業の課題を解決することの大切さを考えることができるようにする。

### 本時展開案（８／９）

| ○学習活動　　・予想される児童の反応 | 資料（資）　手立て（◎） |
|---|---|
| 課題に対してどのように解決しているのだろう。 | |
| ○学習問題について話し合う。<br>・Ｈさんの米づくりから、兼業農家の人の人同士で協力しあっていそう。<br>・Ｈさんのような兼業農家の数はこれから増えていきそう。<br>・耕作放棄地が増えると、これからの食についてとても不安になりそう。<br>・農家の高齢化は深刻な問題だと思う。<br>・農家だけが頑張ってもダメなので、いわき市や福島県で協力して課題の解決に向けて進まないと思う。<br><br>○農業の課題解決について調べる。<br>・Ｈさんのような兼業農家の人達は、協力しあって米づくりをしているね。<br>・機械などを買うお金がないから地区で協力して購入支え合って米をつくっているね。<br>・いわき市は、ほ場整備をして農家の人の作業効率を上げ | ◎前時の終わりに子どもがノートにまとめた考えをもとに、板書計画を立てておく。<br>◎生産者の課題と消費者の課題が分かるように、板書を活用して整理する場面をつくる。<br><br>（資）Ｈさんの米づくりの課題解決策<br>→農家の直接の課題の解決方法を調べることで、いわき市の解決策と比較できるようにする。<br><br>（資）いわき市の取組<br>→農福連携、ほ場整備の取組から、農業に関わる人を増やすことや作業効率を上げるための工夫を理解で |

| | |
|---|---|
| る努力をしているね。<br>・いわき市では、農福連携をして農業に関わる人を増やしているね。<br><br>○「これからの日本の農業」について考え、次時への見通しをもつ。<br>・生産者の人は、米をつくるにあたりたくさんの時間や手間をかけおいしいお米をつくっていた。<br>・おいしい米を食べ続けるために、生産者だけは課題解決にはならないのでどうすれば…。 | きるようにする。<br><br>◎学級全体が「これからの日本の農業について」という視点をもつことができるように、関連する子どもの発言を取り上げ、全体に投げかける。 |

評価規準<思②>

| |
|---|
| 発言内容やノートへの記述内容から、「生産者の課題と消費者の課題を関連付けて、日本全体の農業の課題を解決することの大切さを考えているか」を評価する。 |

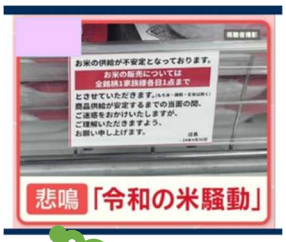
## 4　考察

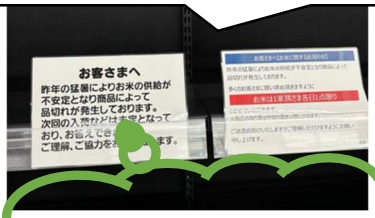
視点①　子どもが自ら問いを見いだし、主体的に学び続けることができる単元づくり

**農業の課題を意識した「単元を見通す学習問題」づくり**

昨今のお米のニュース

昨年スーパーから
お米が消えたときの写真




備蓄米はよくニュースで取り上げられているから、言葉は聞いたことがある。

令和って書いてあるから、平成とかでもあったのかな？

スーパーでもお米がなくなっていたね。

さらに、子どもたちのなぜを引き出す資料の提示

１０年前
５kg
１０９７円

比較

現在
５kg
４２８５円

私たちが生まれた頃は
今より全然安いね

１０年前と比べると
約４倍値段が上がってる
何が起こったの！？

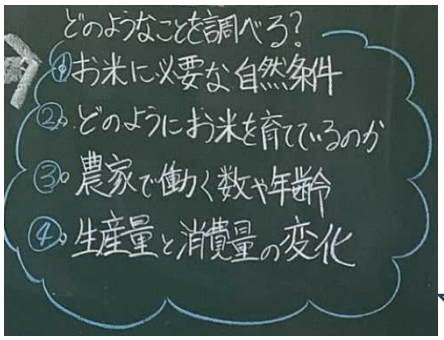
米をつくっている農家で
何か問題があったのかな？

１０年間でいったい
何が起きたのかな？

**単元を見通す学習問題**

日本の米をつくっている農家にはどのような課題があるのだろう。

**実際に子どもたちが考えた学習計画**




**教師が考える学習計画**

- わたしたちが食べている米はどこで作られているのだろう。
- Ｈさんが米づくりをしているいわき市はどんなところだろう。
- Ｈさんは米をどのようにつくっているのだろう。
- Ｈさんは、おいしい米をつくるためにどのような工夫をしているのだろう。
- Ｈさんは、収穫した米をどこに売っているのだろう。

【成果と課題】

〇単元の導入にニュースで『**話題**』になっている「備蓄米」「令和の米不足」を扱ったことは、子どもたちの興味関心を引き出すにはとても効果的であった。

〇子どもたちが生まれた頃の 10 年前の米の値段と現在の米の値段を比較することで、「なぜ」「どうして」「どのようなことがあったか」という時間の『**変化**』から問題意識をもつことができた。

〇「どうして高くなったのか」の話し合いの中から、子どもたちが挙げたことを『**焦点化**』して単元を見通す学習問題を立てることができた。

●子どもの思考を考えながら資料を提示して単元を見通す学習問題を立てることができたが、学習計画を立てる時にもっと問題意識にこだわり、子どもの問いを学習問題としていくべきだった。授業の度に学習問題を確認することに時間が掛かった。

## 視点②　個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり

**学習の積み重ねや体験をもとに、子ども一人一人の見取りを大切にした授業づくり**

単元を通して子どもをみとり

① 端末の提出箱　生徒ごとに表示を使用

子どもたちのふり返りをロイロノートの生徒ごとに表示を使用することで、一人一人の思考の変化や成長を見とることができる。

A 児は、米づくりについてわかったことや考えや思いが描けるようになっている。
B 児は、１時から課題意識をもっていた。生産方法から費用に着目している。
C 児は、生産量と消費量に興味をもっている。ふり返りでわかったことはよく書けている。

② 座席表に子どものみとりを記入
話し合いの意図的指名や指導に活用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| C17<br>生産量の減少に意識がある | C2　未提出 | C3　未提出 | C29　未提出 | | C18<br>高齢化<br>農家が減っている<br>高齢者でもできるようにAIドローンなどを使えるようになるともった | C38　未提出 |
| C<br>機械　作業の効率について<br>若手ができる農業 | C<br>作業の効率化<br>AIやロボットを使う<br>販売の工夫<br>消費者と生産者をつなげる工夫 | C32 | C19<br>米粉の取り組み<br>６次産業化に意識がある | | C37<br>欠席 | C6<br>高齢化<br>生産者の年齢の変化<br>若い人たちへの農業への参加 |
| C22<br>働き手<br>次の世代につなげる<br>環境づくりをしている | C26<br>欠席 | C7<br>消費量<br>お米を家畜の飼料としている | | C34<br>生産量と消費量<br>家畜の飼料に回して<br>水田を生かしている<br>農家がある。 | C5<br>消費量について<br>生産調整<br>貿易により米が外国へ流れている | C4<br>働き手の人数減少<br>昭和に比べるとどんどん下がっている |
| C36<br>消費量と生産の費用<br>米粉を使った食品<br>米の無洗米 | C1<br>スマート農業<br>ICTを活用。農作業の時間を減らし所得を増やす。 | C14<br>機械について<br>無人のトラクター<br>作業の効率化 | | C9<br>費用と収入<br>米粉の取り組み、生産費用を下げる。<br>消費量を増やす取組 | C13<br>生産量<br>５０年前に政府が生産量を調整。米をつくる量に変化が起きている | C24　未提出 |
| C35<br>若い人の最新技術を取り入れた<br>米づくり<br>パソコンやスマートフォンを使用した取組 | C16<br>働き手の不足と高齢化　費用<br>費用と高齢化が働き手の減少と考える | C11<br>働き手の減少と収入<br>収穫に対しての収入が低いことが課題と考える | | C29<br>費用と収入<br>生産者の収入が増えないこと | C25<br>欠席 | C20<br>高齢化、兼業農家<br>働き手が減ると国の食料自給率が下がる心配 |
| C8<br>費用<br>収入が減ったことが働き手が減ったと考える | C33<br>お米の宣伝<br>知ってもらう工夫 | C30<br>消費者へ米の魅了を周知 | | C12　未提出 | C21<br>農家の高齢化<br>平均年齢70歳<br>若い人もつくったほうがいい | C15<br>働き手<br>機会を使って解消<br>農業体験 |

黒　板

ここでは、農家の課題について興味のあることが違うことがわかりました。座席表にまとめみとることで、話し合いを通して様々な課題を関係付けて考えられるように、話合いの流れによって意図的指名ができるように準備をしました。

【成果と課題】
○ロイロノートの提出箱や生徒ごとの表示の機能を使用することで、一人一人のみとりがしやすくなった。
○みとったことを座席表にまとめることで話し合いの意図的指名や個別の指導に活用することができた。座席表を活用し意図的指名をすることで、話し合いに広がりが出たり、深まったりする場面が見られた。みとることの大切さを改めて感じることができた。
●調べ学習や振り返りをうまく書けない児童がいる場合、個別に指導したときに話した内容を座席表に書き入れておくことで、学ぶことに課題がある子も生かすことができたのではないかと思う。

令和７年度　神奈川県小学校教育研究会　社会科研究部会
夏季特別研修会 ５年部会

研究主題
「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育
学んだことを社会や生活に活かす学習過程のあり方」

相模原市立小学校教育研究会社会部会（中央区）
研究主題
「自ら課題をもち、共に学び合い、多角的に考える社会授業」

単元名「くらしと産業を変える情報通信技術」

令和７年　８月１日
場所　　横浜市立日枝小学校
提案者　相模原市立淵野辺東小学校　池上　順也

I. 研究の背景と主題

１．研究主題の概要

本実践は、相模原市立小学校教育研究会社会科部会（中央区）が掲げる研究主題「**自ら課題をもち、共に学び合い、多角的に考える社会授業**」を達成するために行われた。この主題は、「共に学びあい、たくましく生きる子どもを育む相模原教育の創造」という相模原市立小学校教育研究会のテーマの下で追求されてきたものである。

２．研究主題を追求する教育的理念

社会科の授業において、児童が主体的に問題解決に取り組むためには、学習内容を「自分事」として捉えることが最も重要であると部会は考えた。

- **課題設定の源泉**：児童が身近な事柄や社会現象に興味を持ち、それが生活や未来にどのように関わるかを実感することで、内発的な問いが生まれやすくなる。この「自分事」としての問題意識が、自ら課題を設定し、能動的に学習を進める原動力となる。
- **多角的思考の育成**：「自分事」として問題を捉えることで、児童が持つ多様な経験や視点に基づいた意見が活発に交わされ、一つの物事を多角的・多面的な視点から考察する力が養われる。例えば、経済的側面、環境的側面、人々の生活への影響など、様々な角度から意見を出し合うことが可能となる。
- **包括的な解決策の発見**：多角的な思考を経て、児童は単一の解決策に固執せず、複数の選択肢を比較検討したり、異なる視点からの意見を統合したりすることで、より現実的で包括的な解決策を見出す力を育む。

II. 研究の視点と実践の焦点

研究主題の達成に向け、本実践では以下の三つの視点に焦点を当てて授業を構成した。

視点１：身近な題材を通じた課題意識の喚起

「販売業における情報通信技術の活用」というテーマを、児童にとって身近な「コンビニエンスストア」という題材を通して学習を展開した。

- **内発的な問いの発生**：この身近さが、子どもたち自身の経験と結びつき、「なぜ同じチェーン店でもお店によって品ぞろえが違うの？」、「どうやってどの商品が必要か分かるの？」といった、生活の中での違和感から生まれる問いを促した。
- 特に「**沖縄の人がコンビニで買うとは思わない。誰がこの商品をほしいのだろう**」という直感的な気づきは、情報収集の仕組みや判断者の特定という学習へ発展する重要なきっかけとなった。

視点２：一面的な理解にとどまらない教材構成

ICTの**便利さや効率性といったポジティブな面**だけでなく、その裏にある**リスクや格差**といった側面にも目を向けさせる教材構成を意識した。

- **意見の対立の意図的設定**：販売者と消費者の双方の視点から資料を用意し、意見の「ズレ」や「違い」が生まれるように仕掛けた。例えば、「AIレジはすごい！」という肯定意見に対し、「おばあちゃんは使えないかも」「ネットが止まったらどうするの？」といった否定的側面からの意見が返ってきた。
- **多角的な思考への発展**：この「ズレ」を通して、子どもたちは多様な価値観を内省的に受け止め、「自分は便利だと思うけど、他の人にとってはどうかな？」、「技術が進むことで困る人がいるとしたら、どうしたらいいかな？」と問い直し、肯定・否定の二元論を超えた多角的な思考力の育成につながった。
- **資料の活用**：動画資料「未来のコンビニ」や、キャッシュレス決済の利用率、年齢別ICT利用などの統計資料を提示することで、「立場」や「場面」による物事の多様な変化に気づけるように設定した。

視点３：対話を軸にした学びの展開
正解が一つではない情報通信技術という題材において、多様な見方や価値観をぶつけ合い、すり合わせる「対話」を学習の軸とした。
**・対話の構造**：個人→ペア→全体という情報共有の流れを一貫して取り、意見がぶつかる構成を意識的に設けた。
**・思考の深化と再構築**：「AIがレジをするのは便利だけど、人と話せなくなるのは寂しい」という声に、「それって、お年寄りとかが安心できるってこと？」と問い返すなど、互いの言葉を手がかりに、自分の思考を深めたり軌道修正したりするプロセスが見られた。
**・教師の役割**：教師は意見の「ズレ」や「揺らぎ」を学びの源泉として捉え、安易に整理せず、「じゃあ、それについてはどう思う？」「みんなの意見を聞いて変わったことはあった？」と問い返すことで、思考の深化と再構築を促した。

III. 単元計画の概要
１．単元名「くらしと産業を変える情報通信技術」
２．目標
知識・技能：大量の情報やICTの活用が産業を発展させ国民生活を向上させていることを理解し、聞き取りや統計などの資料を通して情報を調べまとめる技能を身につける。
思考・判断・表現：情報を生かして発展する産業の役割、情報化の進展に伴う産業の発展や生活向上について多角的に考える力、説明・議論する力を養う。
態度：主体的に学習問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度、多角的な思考を通じて将来を担う国民としての自覚を養う。

３．評価規準（思考・判断・表現の観点）
情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、産業と国民の立場から多角的に考えたりして、適切に表現していること。

４．指導計画（全6時間）
本単元は全6時間で構成された。

| 時数 | 主要な学習活動 |
|---|---|
| **1** | コンビニの利便性や店舗による品ぞろえの違い（例：沖縄の商品）から疑問をもち、情報通信技術の活用場面を探し出す。 |
| **2** | コンビニエンスストアなどの販売業の情報活用について学習問題を設定し、予想と学習計画を立てる。 |
| **3** | POSシステムに集められる情報とその目的を理解し、ICT活用が販売者と消費者それぞれに与える利点を考える。 |
| **4** | 本部が集めた情報の分析・活用（例：食品ロス削減、新商品開発）が店舗や消費者に与える利便性を理解し、考えをまとめる。 |
| **5** | コンビニエンスストア以外の販売業（衣料品、スーパーなど）の情報活用について調査・理解する。 |
| **6** | （本時）学習したことを基に、これからの情報通信技術の活用の仕方を考える。 |

４．学習指導要領との関連
本単元は、第5学年「我が国の産業と情報との関わり」の内容(4)のうち、「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていること」の理解を目指す。指導の取り扱いとして、「販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること」、および「産業と国民の立場から多角的に考えて」自分の考えをまとめるよう配慮することが示されており、本実践では「販売業」を選択した。

IV. 本実践の記録（第6時）
第6時は、これまでの学習を基に、これからどのように情報通信技術（ICT）を活用していくべきか考えることを目標とした。

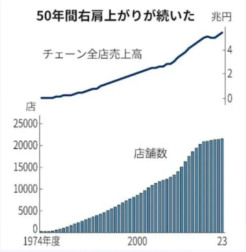
１．学習活動と内容
1. **導入**：前時までの販売業での情報活用や売り場の実態を振り返る。
2. **展開**：本時の課題につながる動画（完全無人化コンビニ、AIロボット店員、その人に合ったサービス提供）を視聴。
3. **思考の整理**：動画視聴後、すぐに話し合うのではなく、一度考えを記述する時間を設けた。
**肯定的側面（光）**：レジで待つことなく買い物ができ便利、自分に合った商品推薦、店員さんの働き方が変わる。
**否定的側面（影）**：ネットが使えない人は大変、災害時に利用できなくなる、個人情報の流出や悪用の不安、AIによる仕事の増加で人間の仕事が減ってしまう可能性。
4. **議論とまとめ**：「これからの情報活用の仕方について自分の考えをまとめる」活動では、情報を活用することで国民に合ったサービスが展開することへの期待と同時に、全てをAIに頼ることへの心配も示された。また、便利になる一方で困る人が出ない社会にしたいという考えがまとめられた。

２．指導上の留意点
• 児童の考えが肯定的、否定的どちらかに偏った場合、別の視点で考えられるよう助言を行った。
• 多角的な視点を持つために、現金利用が多いグラフ、生産年齢人口のグラフなどの資料を提示した。
• 発言の際には、学習してきたことや資料を根拠に理由を説明できるよう促した。

## 3．授業記録

### 第1時の授業の様子

導入：コンビニエンスストアの資料を見る




展開：店舗による違いを発見する

### 第2時の授業の様子

前時の振り返りと学習問題の設定

- 「店舗によって扱う商品が違うのは住んでいる人は関係していそう」
- 「天気や季節によって売っている物も違う」
- 「買い物をしやすくするために色んな情報を集めているのかな」

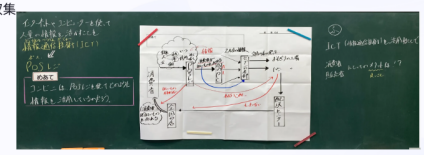
学習問題

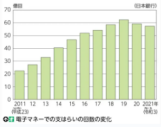
「コンビニエンスストアなどの販売業では、どのように情報を集め、活用しているのだろう」

- 「どうやって情報を集めているのか」
- 「その情報から何がわかるのか」
- 「コンビニ以外にも情報を使っているお店がありそうだ。」

### 第3時の授業の様子

POSシステムによる情報収集





課題

- 子どもの学習意欲の低下
- 専門的知識の乏しさ➡取材NG

### 第4時の授業の様子

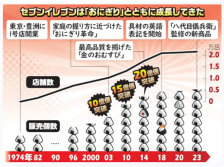
大量に集まった情報の活用

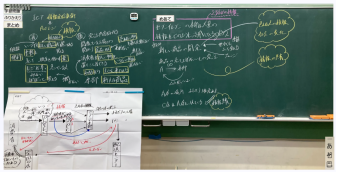
データ活用前

| 仕入れの数 | 売れた数 |
|---|---|
| ●●パン 255 | 249 |
| ○○パン 80 | 80 |
| △△めん 150 | 132 |
| ▲▲めん 100 | 100 |
| □□牛乳 672 | 665 |

データ活用後

| 仕入れの数 | 売れた数 |
|---|---|
| ●●パン 248 | 246 |
| ○○パン 144 | 141 |
| △△めん 160 | 158 |
| ▲▲めん 192 | 189 |
| □□牛乳 842 | 840 |



### 第5時の授業の様子

コンビニエンスストア以外の販売業の情報活用

衣料品店
「衣料品を置くだけで値段がわかるレジがある」

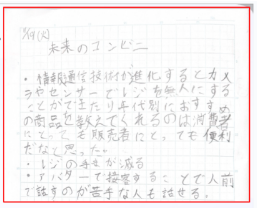
スーパーマーケット
「スーパーはキャッシュレスレジが増えてきて情報を集めやすくなっている」

スマホレジ
「スマホレジのおかげで店側も消費者側もスムーズに買い物ができる」

### 第6時（本時）の授業の様子

導入：前時の学習を振り返る

展開：未来のコンビニエンスストアの動画を視聴する



肯定的な意見

- 利用者はレジで待つことなく買い物ができて便利になる
- レジを通さずに買えると手間がなく買い物ができる
- 自分に合ったおすすめの商品を教えてくれると悩まなくていい
- 店員さんの働き方が変わる
- 家にいても仕事ができるのがすごい

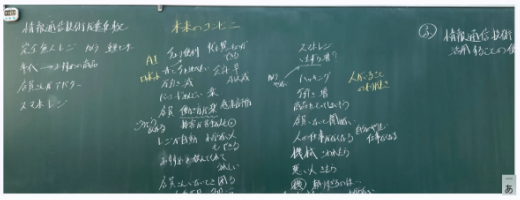
肯定的な意見

- 利用者はレジで待つことなく買い物ができて便利になる
- レジを通さずに買えると手間がなく買い物ができる
- 自分に合ったおすすめの商品を教えてくれると悩まなくていい
- 店員さんの働き方が変わる
- 家にいても仕事ができるのがすごい

否定的な意見

- ネットが使えない人は大変そう
- 災害のときに利用できなくなると思う
- 困ったときに店員さんに頼ることができない
- 個人情報の流出が心配
- AIができる仕事が増えて、人間の仕事が減ってしまうかも

**発問**



V. 研究の成果と今後の課題

１．成果

| 視点 | 成果 |
|---|---|
| **視点１**<br>(身近な題材) | コンビニを題材としたことで、ICTの発展を「自分事」として捉えやすくなり、学習課題に対する興味や疑問が自然に喚起された。導入で提示された「未来のコンビニ」動画は、現状と未来のギャップを感じさせ、子どもたちが目的意識を持つ上で非常に効果的だった。動画視聴後に一度自分の考えを記述する時間を設けたことで、その後の意見交換が明確な課<br>題意識に基づいたものとなった。 |
| **視点２**<br>(多角的な教材) | 教師が「全部未来のコンビニにつきすすんでいくといい？」と発問したことで、ICT発展の「光」（利便性）と「影」（課題）の両側面を捉えることができた。現金利用グラフや生産年齢人口グラフなどの多様な追加資料が提供されたことで、子どもたちだけでは気づきにくい社会的な背景や課題に目を向けさせ、多角的な思考を促した。 |
| **視点３** (対話) | 記述活動後の意見交流は、各自の思考に基づいた質の高い「学び合い」につながった。肯定的な意見と否定的な意見の両方が提示されたことで、子どもたちは様々な視点があることを知り、互いの考えを尊重しながら議論を進めることができた。 |

２．今後の課題

| 区分 | 課題内容 |
|---|---|
| **課題設定** | 本時では教師が提示した動画から課題設定へ繋がる流れであったため、子どもたちの既存の問いや振り返りから学習問題へと出発する「ワンクッション」を設けることで、より「自ら課題をもつ」意識を高められる可能性がある。 |
| **思考の多様化** | 「よい・わるい」といった二項対立的な視点だけでなく、経営者視点、生産者視点、地域社会の視点など、多様な立場から情報通信技術の活用について考えさせ、より深い多角的な思考を促す必要がある。 |
| **論理性の強化** | 発言の際に、学習してきたことや資料を根拠に理由を説明できるように促す指導をより徹底し、児童自身の思考の論理性を高めることが求められる。 |
| **板書の工夫** | 板書において、子どもたちの思考の流れや、肯定・否定意見の対比、多様な視点を視覚的に分かりやすく整理することで、全員が議論のポイントを共有し、「ともに学び合う」ための土台を強化できる。 |

## VI. 夏季特別研修会を終えて

「国民生活の向上」と「情報通信技術の発展」の2つの視点について

１．多角的に考える力 情報通信技術の発展は、便利さや効率性といった良い面だけでなく、リスクや格差といった課題も生み出します。授業では、販売者（お店）と消費者（お客さん）の双方の視点から資料を提示し、意見の対立や比較が生まれるように工夫しました。たとえば、「AIレジは便利！」という意見に対し、別の児童が「おばあちゃんは使えないかも」と返したように、子どもたちは自分と違う立場や考えがあることに気づき、物事を多面的に捉える力を養いました。

２．共に学び、問題を解決する力 情報通信技術のように正解が一つではないテーマだからこそ、多様な見方や価値観をぶつけ合い、対話を通じて考えを深めることを重視しました。意見の「ズレ」や「揺らぎ」を学びの源泉と捉え、教師が一方的に整理するのではなく、「みんなの意見を聞いて変わったことはあった？」と問い返すことで、思考の深化を促しました。このような対話を通して、子どもたちは一人ではたどり着けない解決策を見出す力を育みました。

授業のめあてと題材設定について

1. めあての抽象性について

「活用の仕方について考えよう」というめあては、あえて抽象的に設定しています。これは、子どもたち一人ひとりが、自分の興味や疑問に基づいて、自由に課題を設定できるようにするためです。授業の目標は、教師が与えた課題をこなすことではなく、子ども自身が「自分事」として課題を見つけ、解決に向けて主体的に学習を進めることです。これにより、子どもたちは「学びの当事者」として、深い学びへとつながっていきます。

2. POSレジと現代の視点について

POSレジは昔からありますが、その進化のスピードと活用方法が現代の大きな特徴です。今回の授業では、レジの機能だけでなく、「集まった情報を本部がどのように分析・活用しているか」という点に焦点を当てました。この学習を通して、商品の売れ筋予測や食品ロスの削減、新しい商品の開発につながっていることを理解し、「国民が求めているものを把握する」という現代の視点を捉えることができました。消費者目線や人手不足といった現代の課題は、動画資料や統計資料（高齢化社会や地方の人口減少など）を提示することで、子どもたちが「AIロボット店員」や「完全無人化コンビニ」について考えるきっかけとなりました。

3. 「未来のコンビニ」という題材の有効性について

「未来のコンビニ」という動画は、子どもたちにとって非常に有効な教材でした。この動画は、子どもたちが現状と未来のギャップを肌で感じ、「情報通信技術がさらに発展すると、私たちの暮らしはどうなるのだろう？」という問いや課題意識を持つ上で効果的でした。この題材があったからこそ、子どもたちは単なる知識の習得にとどまらず、これからの社会を担う一員として、未来を主体的に考えることができたのだと思います。

# 研究テーマ「社会とのかかわりを実感する社会科の研究」

## Ⅰ．研究主題との関わり

本研究は、昨年度令和６年度大和市立林間小学校６年生を対象に実践した研究である。当時の神奈川県小学校教育研究会社会科部会のテーマは以下のとおりである。

令和６年度　神奈川県小学校教育研究会　社会科部会　テーマ

人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育
サブテーマ　学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方

また、大和市小学校教育研究会社会科部会の年間テーマは以下の通りである。

令和６年度　大和市小学校教育研究会　社会科部会　テーマ

社会とのかかわりを実感する社会科の研究

この二つのテーマで共通することは社会的事象（現実の、リアルの）を児童が学ぶ材として扱い、本市のテーマにもある実感、学ぶ者が実感することで社会や生活に生かせるのではないかと読むことができるのではないだろうか。私は、この２つのテーマをそのようにとらえた。

したがって本研究で目指す児童の姿を以下のようにとらえた。

→授業内で自ら探究する姿
→授業外での調べ活動をする姿
→実社会とのかかわりを通して見出す姿

本学級の児童は、これまでの歴史の授業や他教科の学習で教師から与えられて学ぶことに対して非常に抵抗があることが分かった。年度初めのある単元では、教科書の挿絵から気づいたことと疑問を出し、教科書の本文から読みとる実践を行ったところ、児童からは「早く授業が終わらないかな。」「また、社会か。」といった発言が見られた。また、教師から出す一問一答のような授業スタイルを行った際、暗記傾向な展開となった。この時の反応はやはり抵抗を感じる様子が見受けられた。一概に授業展開が与えた影響ではない可能性もあるが、少なくとも、児童が“社会科の授業を受けたくない”または“抵抗がある”と分析できた。しかし、縄文時代・弥生時代の学習では、挿絵から今と当時の暮らしの変化に自然に気が付き、自ら疑問を出して調べ学習を進める姿やつぶやきが見られた。これは、自分なりの納得感や調べる意味を見つけたことにあると私は分析した。

この結果から導入の工夫をすること、児童の中に学習内容において自分なりの納得感があることが以下の研究の視点を達する手立てになるだろうと考え、計画を立てていった。

## Ⅱ．研究の全体像

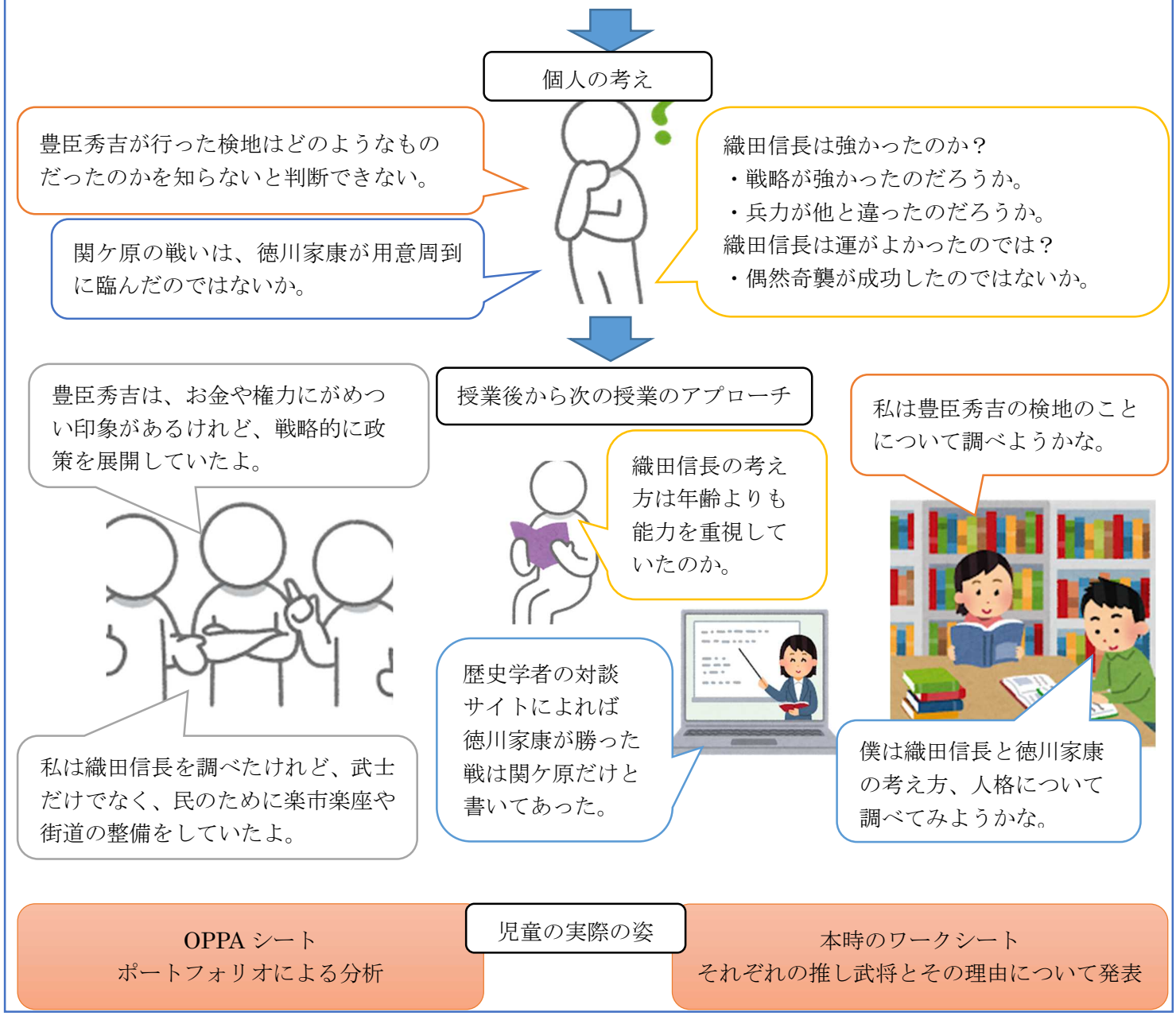
単元を貫く学習問題
自分が武士か民かを選んで３人のうち、誰についていくか考えよう。

授業

豊臣秀吉の行った検地に当時の人は賛成したのだろうか。

関ケ原の戦いで徳川家康はどのようにして勝利を収めたのだろうか。

織田信長の勢力拡大図を見て気づいたことは？
16 年の間にどうなっている？




上記の図のように授業の 1 時間だけでなく、授業後の学習や家庭で自主的に調べてきたくなるような課題設定とその内容が詳しく記載されている資料（学校用図書から引用）を配冨し、児童の状況や学習進度、関心によって渡す資料を全体、または個人で提供した。研究の視点としては以下のようになると考えられる。

視点①授業内で自ら探究する姿
視点②授業外での調べ活動をする姿
視点③実社会とのかかわりを通して見出す姿。

“授業内で自ら探究する姿”では、単元を貫く学習問題である自分が武士か民かを選んで 3 人のうち、誰についていくか考えよう、が自ら進んで学び取る姿を目指すことにつながると考えて設定した。

また、授業の導入部分の工夫を行う。これは、戦国時代の学習では戦い方だけでなく政策や戦略なども題材の価値ある点だと考えている。そのため、資料提示のタイミングを教師側で意図的に設定することで児童の疑問と違った見方を獲得するための手立てとしたい。特に、織田信長について学習する第一次の場面では、年数と領地拡大の二つの視点から「なぜ、短い年数でこんなにも領地を拡大したのだろうか」という問いから、児童を揺さぶりたい。このような導入段階の工夫や各次における効果的な資料提示のタイミングを考えたい。

次に、“授業外での調べ活動をする姿”では、OPPA シートを活用する。OPPA シートとは山梨大学堀哲夫名

誉教授が開発した「一枚ポートフォリオ評価（OPPA：One　Page　Portfolio　Assesment)」で用いられるシートです。学習者が授業前・中・後の学習履歴を一枚の用紙に記録し、自己評価を行うものです。(「一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業」堀哲夫　監修　中島　雅子　編著　東洋館出版社商品説明より）このOPPA シートに 6 枠ある中で 3 枠を記入する時間を指定した。(詳しくは､）それ以外の 3 枠については児童に委ねた。書きたいと思う時、記入しておき、そうでないと思う時は出さなくても構わないとした。このように児童にあらかじめ選択をさせ、最終ゴールである自分の立場武士 or 民衆、そして 3 人のうち誰についていきたいかを考えさせた。

最後に“実社会とのかかわりを通して見出す姿”では、上記の図で言う授業後のそれぞれのアプローチと授業内でのアプローチにかかる。授業内で調べる時間を取った際に児童の近くへ寄ると「織田信長について調べているけれどなかなか出てこない。」「難しい」と言った声が聞こえた時には、彼らに織田信長が大切にしていた考えがあったそうだよとこちらで用意した資料を見せて、調べ学習を促した。また、豊臣秀吉については批判が多く、民から搾取する様子にフォーカスされ批判が高まった。違う視点から見るために別の資料を出し、（真意は定かではないが事実として）豊臣秀吉が掟を多く作った時代、特に農家は作物を盗まれてしまうことが多く起こっていた。この二つの事実を出した時、児童はこのような事が起こらないために民衆を管理する掟を作ったのではないかと意外な一面に資料を探す姿が見られた。

上記の内容は、歴史的事象を単なる知識として終わらせるだけでなく、知識を概念化していく過程として「彼ら３人がもしもこの時代に生きていたら、どのようなことをするか」様々な歴史書にもあるが「３人の中で理想の上司は？」「リーダーシップを発揮しているから、色々な人たちがついていきそう」など自分たちの生きる社会と関連付けることで更に深い学びとなるのではないかと考える。そのように考える児童を取り上げて、新たな視点を共有したい。

以上のような３つの視点をもち、研究を進めた。

## Ⅲ．研究内容を取り入れた単元と本時の展開

単元名　小単元５：全国統一への動き　教育出版ｐ１２８～ｐ１４１

単元目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目し、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ我が国の主な事象を捉え、我が国の歴史を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにする。主体的に学習問題を追究し解決しようとする態度を養う。

単元の評価規準

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一の様子を理解している。<br>② 調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。 | ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え表現している。<br>② キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり、総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 | ① 天下統一にかかわった織田・豊臣、徳川家康の人柄、政策や取り組みからその後の展開を予想し、調べることを考えたりしている。<br>② これまで調べて分かったことや経験から学習問題に向かって追究したり、解決したりしようとしている。 |

【知・技】＝知識及び技能【思・判・表】＝思考力、判断力、表現力等【態】＝主体的に学習に取り組む態度
【○】記録に残す評価　【・】指導に生かす評価　【□】主な学習活動

| 次 | 時 | めあて | 学習活動 | 子どもの問い | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 1 | 学習の見通しを持とう。 | □中でも、戦国時代に残る「天下餅」の歌を知る。「織田がつき　羽柴がこねし天下餅　座りしままに　食ふは徳川」からどのような様子から表されたのか、予想する。 | 天下餅の歌は戦国時代に生きる三人をどのように表しているのだろうか。 | ・ | | |
| 1 | 2<br><br><br><br>3 | 織田信長はどのような人物なのだろう。<br><br><br><br>織田信長はどのような取り組みをしたのだろう。 | □さらに細かい東海・北陸・畿内の戦国大名（16 世紀中ごろ）織田信長の領地の大きさに着目する。<br>□織田信長が大事にした天下布武について考える。<br>□予想される学習問題<br>織田信長が取り組んだことについて資料から読み取る。<br>□気づいたことを発表する。同盟、作戦（戦略）、政策、生涯の 4 つに分類し、織田信長が領地を拡大した理由をまとめる。 | 天下布武とはなんだろうか。<br>織田信長が領地を拡大できたのは、どうしてなのだろう。 | ・ | ○ | |
| 2 | 4<br><br><br><br><br><br>5 | 豊臣秀吉はどのような人物なのだろうか。<br><br><br><br><br><br>豊臣秀吉はなぜ、太閤検地を行ったのだろうか。 | 金箔の茶室の写真を見て、どんなお城か確認する。<br>『なぜ、こんな黄金の茶室を秀吉さんは作ることができたのだろうか。』<br>『全国統一をしたら手に入るものはお金だろうか。』<br>『秀吉さんの富、お金はどこから出ているのだろうか。』<br>□太閤検地の様子、資料から見て気づくことや考えたことを記入する。<br>□太閤検地について、何故行われたのか資料をもとに考える。<br>※筑波大学付属小学校由井薗教諭実践より引用。許諾済み | 天下統一をすると手に入るものはなんだろうか。<br><br><br><br>太閤検地は何のために行われたのだろうか。<br>当時の民はどのように検地を捉えていたのだろう。 | ○<br><br><br><br><br><br>・ | ○ | ・ |
| 3 | 6 | 徳川家康とはどのような人物なのだろう | □岡崎城の宿直話、豊臣秀吉に伝えた挑戦状の資料を読んで、徳川家康の人柄を考え | 徳川家康はどのような | ○ | ・ | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 7<br><br><br><br>8 | か。<br>徳川家康が関ケ原の戦いで勝利するために行ったことはなんだろう。<br>これまで学習した織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の誰についていきたいか | よう。<br>□なぜ、西軍の小早川秀秋はなぜ寝返ったのだろうか。資料をもとに考えよう。<br>□これまでの学習から、自分が武士または民として織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の誰についていきたいかを考える。<br>□ノートにまとめる。<br>□次回の発表に向けて準備する。 | ことを考えて、関東で過ごしていたのだろうか。 | ・ | ○ | ○ |
| 4 | 9<br>本<br>時 | この時代の武士または民として織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の誰についていきたいかを考えよう。 | □前時に確認した内容を見直す。<br>自分が武士または民であったら、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の誰についていきたいかを考える。 | この時代の武士または民として織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の誰についていきたいか。 | | ○ | ・ |
| | 1<br>0 | 学習のまとめ | 【知識・技能】<br>□3 人の武将の業績を理解している。<br>□長篠の戦いのころの様子を理解している。<br>□江戸幕府の政策についての資料を読み取ったり、まとめたりしている。<br>【思考・判断・表現】<br>□安土桃山時代から江戸時代のころの歴史の展開について考えることができる。 | | ○ | ○ | |

単元で追究したい・させたいこと

天下統一に向けた三人の行いについて、自分が武士か民になりきって誰についていきたいかを考える。

※　単元の最後で誰についていきたいかを考え、意見を共有して改めて自分の中で結論を出す。

本時の指導計画　（９／１０時）

（1）目標

当時の武士または民の立場から織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の取り組みや政策を知り時代の様子を考える。

（2）評価規準

| 評価の観点 | 本時の評価規準 | 「十分満足できる」と判断される児童の状況 | 「努力を要する」状況と判断される児童への手立て |
|---|---|---|---|
| 思考力、判断力、表現力等 | この時代の武士または民という視点に立ち、だれにつき従うかについて資料を根拠にして考えることができる。 | この時代の武士または民という視点に立ち、だれにつき従うかについて複数の資料やそこから読み取れる人物像から自分の論拠を構築している。 | これまで学習した資料から自分の考えを持てるように支援する。 |

（3）展開

| 段階 | 主な学習活動・予想される児童の考え | 教師の支援<br>予想される児童の反応 C | 評価◇ |
|---|---|---|---|
| | □めあてを確認する。 | | |
| | めあて　当時の武士または民になって 3 人のうち誰についていきたいかを考えよう。 | | |
| １０ | □前時に確認した内容を見直す。 | これまで授業で扱った資料と自分で調べ | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 分 | 自分が武士または民であったら、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の誰についていきたいかを考える。 | て見つけた史料から考えを導くように指導する。<br>理由は、具体的でわかりやすく記入するように指導を行う。 | |
| ２５分 | □班でノートを回して、メモに書く。<br><br>□相手のノートを見て、気になったことや面白かったことを一言、相手の名前を発表する。<br><br>□全体でなるほど、自分にはなかった考えで発見があった人は発表する。 | 発表を聞いている人はどの観点から相手はすごいと思ったのかを念頭に発表を聞く。<br>メモに記入する。<br>自分が思いつかなかった考えに出会ったら、メモをする。また自分の意見に対する根拠が強化された場合も記入する。 | ◇【思・判・表】この時代の武士または民という視点に立ち、だれにつき従うかについて資料を根拠にして考えることができる。<br>（ノート、活動、発言） |
| １０分 | □もう一度、この時代の武士または民として織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の誰についていきたいかを考える。<br>□考えたことを最後にワークシートに記入する。 | C：私は武士の視点で考えていたけれど、Aさんのような考え方には気づかなかった。私の考えは変わりました。<br>C：ほかの人も私の考えと同じであったため、やはり、自分は最初と同じ考えで行こうと決めました。<br>C：武士の視点と民衆の視点では変化する部分があるのではないかと思いました。よって武士の視点では織田信長、民衆の視点では徳川家康についていこうと思います。 | |

## Ⅳ．研究の成果と課題

令和６年度　大和市小学校社会科研究会で当日の授業の様子を録画し、協議を行った。その際の研究の成果と課題を以下に示す。

≪課題≫

△本時の評価規準とずれていた。調べ学習としては広がったがまとめる時間が欲しい。

時代の様子を把握するのが指導要領の目的になるので「３人に共通することは？」「天下統一する上で必要なことは？」「戦国時代はどのような時代と言ったらよいのだろう。」など発問をさらに入れるべきだと思う。

民か武士の立場で２視点。加えて織田、豊臣、徳川で増えるだけでも３視点。まとまらないのでは？

民の立場や武士の立場に子どもたちがどれだけなれるのか。本当にその立場になれるのか、なれているのか

≪成果≫

〇どの立場で推しているのかが明確であった。

〇ワークシートの構成が良く、それぞれが調べていた。

〇推しという言葉から児童の自分事に近づけた。

〇児童が様々な情報を集めていた。（政策、エピソード、人物像、人柄）

〇次の授業に向けて休み時間を活用し、用意をしている姿が見られた。

≪まとめ≫

以上のように、歴史の展開では時代の様子をつかむという点と児童が自ら進んで学習に取り組む姿の両輪を叶えるためにはさらに研究が必要だと感じた。上述したように自分事として考えること、彼らなりの探究する姿は成果として考えられるが、実社会とのかかわりについては課題であると考える。このことについて、石井英真氏

は『問いと答えがより長く、「使える」レベルの複合的なものへと各教科の学習活動を再構成することが重要です（より高次の学習へ)。』「授業づくりの５つのツボ」著　石井　英真　ミネルヴァ書房　２０２０.０６　ｐ５１と述べ、「使える」レベルの思考を試す課題がより高次な学習へとつながると述べています。今回の授業で言えば、単元末で「天下統一に向けて動いた織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に共通することはなんだろうか。」や「それぞれの政策を行っていた時代は、どのような時代か」という問いや更に高次な「争いが多い時代に、時代の変化を起こす人は、〇〇のようなことを考えている。」また、「民衆は政策に不満を感じると、治めている管理者に一揆を企てる」と言った、拡散させる問いから収束の部分が足りなかったと感じる。そのためには、視点に立ち返る発問や問い返しが重要ではないだろうか。

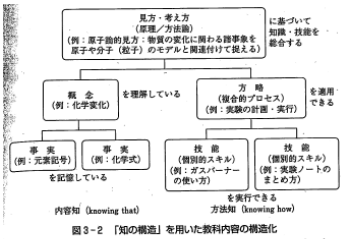


図３-２「知の構造」を用いた教科内容の構造化
（出所）西岡（2013）が McTighe & Wiggins (2004) p. 65の図や，Erickson (2008) p. 31の図をもとに作成した図に筆者が加筆・修正した

上に示したものは、ｐ７５に記載がある教科の知の構造を引用した。教科の知識を構造的に理解する仕組みを表している。この考え方に基づいて、児童のワークシートや今回の授業の構成を分析すると概念を理解している、方略を適用できる段階は数名の児童に見られたが、それらを活用して見方・考え方を働かせてモデルと関連付けて知識を統合することについては課題が見られた。

やはり、様々な知識を統合するためには、最後に収束する発問によってより高次の学習へつながることになるのではないかと分析できる。

児童の実態は中心に据えながらも、学習指導要領としてねらうものからはブレずに目的を達することができるのではないだろうか。

## Ⅴ．発表当日に行われた協議で出された意見

当日の協議では、以下のような意見が出された。

・単元の目標と単元計画のズレがあるのではないか。
・単元目標に迫るための手立ての中で、効果的だと思ったものは何か。
・織田・豊臣の天下統一と学習指導要領の解説には記載があるが、徳川を扱った意図は何か。
・人物の性格や人柄によりすぎているのではないか。児童の記述も史実については触れていないが、学習としての抑えどころはどの程度できていたのか。

今回いただいた意見は、単元を貫く学習問題として設定した『天下統一に向けた三人の行いについて、自分が武士か民になりきって誰についていきたいかを考える。』について述べる必要があった。

彼らの中で、社会科の歴史は暗記するものだという先入観があり、「知識を知る者が優位」であるという概念が形成されている様子があった。そこで彼らが知る歴史を違った側面から読み取り、考えることで進んで主体的に学習に取り組む姿勢が見られるのではないかと思い、単元を貫く課題を設定した。

「人物の性格や人柄によりすぎているのではないか」という意見では、本来の学習指導要領で押さえなくてはならない政策や取り組みの観点が参加者の方からは薄いと感じた様子であった。それは、人柄によりすぎたがために、知識・理解としての側面が児童の記述から表出しなかったことにあると考えられる。しかし、歴史の楽手では、決まった歴史的事象がある中で一方的に教授する学習にとどまってしまうとより高次の学習につなげることが難しい。したがって、歴史的事象に対して考える余地を作り、児童がその中で予想し、当時の人々に思いをはせることで知識は意味を伴ったものになるのではないかと協議の中で意見が出された。

加えてこの歴史学習の難しさにもあると思われるが教科書では、関ケ原の戦いまでがこの「全国統一への動き」で扱われている。子どもたちは、教科書や独自で集めた資料で考えるが、天下餅の歌を導入で使用したため指導要領記載の「織田・豊臣による天下統一…」の点は確認したが、徳川を扱った。この点については、歴史学習では、時代をつながりの中で捉えるという点に立ち、徳川も含めて考える必要があると判断した。この点については協議が必要だと考える。

単元名　「幕府の政治と人々の暮らし」
～太平の世を作った江戸幕府～

川崎市立東大島小学校　市村　和那

## １．　主題に迫るための視点及び手立て

**川崎市小学校社会科教育研究会　研究主題**

**ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習**

**視点（１）「調べたい！」が生まれる魅力的な教材**

武士による政治の安定を「争いが少なくなった」と捉え、既習の時代と比較しながら児童の問題意識を高めようと考えた。これまでの学習でも考えてきた「政治の仕組み」「人々の暮らし」「外国との関わり」の３つの視点で調べることで、児童が見通しをもって主体的に活動できるようにした。

**視点（２）調べ学習と考えをまとめるための多様な学習活動**

調べる視点の「政治」を初めに調べるようにした。そこから鎖国や五人組など児童の興味に沿った内容を調べる時間を設定した。児童ごとに調べ学習を進めることで「交流したい」という児童の意欲が引き出せるようにした。クロームブックや教科書、資料集、図書資料など自分に合った方法で調べることができるようにした。

**視点（３）わかったことを共有して学びを深める学習活動**

調べたことをピラミッドチャートに整理することで「江戸時代に争いが少なく、長く続いた」理由について根拠が明確になるようにした。また、争いが少なくなるのに効果的だった政策についてチャートをもとに交流することで、考えの変容や深まりが感じられるようにした。

## ２．単元について

**単元目標**

江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目し、地図や年表などの資料で調べ、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することで、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究解決しようとする態度を養う。

**評価規準**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年 表などの資料で調べ、必要な 情報を集め、読み取り、江戸 幕府の始まり、参勤交代や鎖 国などの幕府の政策、身分制 の様子を理解している。<br>②調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。 | ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、江戸幕 府の始まり、参勤交代や鎖国 などの幕府の政策、身分制に ついて考え、表現している。<br>③ 江戸幕府の始まり、参勤交 代や鎖国などの幕府の政策、 身分制を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の 様子を考え、適切に表現して いる。 | ①江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

**資質・能力の育成に向けた学習評価計画（７時間）**

| 本時のねらい | ○主な学習活動 | ◇主な資料 | 評価方法【評価規準】 |
|---|---|---|---|
| ①②世の中の様子に着目して、問いを見出し、予想を立て、主体的に学習問題を追究し解決しようとするようにする。 | ○戦国の世の戦いの数と江戸幕府の治世主な戦いの数から単元の学習問題をつくる。<br><br>○学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。 | ◇戦国の世の主な戦い◇江戸幕府治世の主な戦い | ・発言やノートの記述から、「世の中の様子に着目して、問いを見出しているか」を評価する。【思―①】<br>・単元を見通す学習問題に対して、「予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。<br>【態―①】 |
| ②江戸幕府が大名に対して行った政策を調べることを通して、政策により大名の力を抑え、幕府の力を強めたことを理解できるようにする。 | ○江戸幕府が大名に対して行った政策を各種資料で調べる。 | ◇武家諸法度<br>◇大名配置<br>◇参勤交代<br>◇家光の言葉 | ・発言やノートの記述から、「資料から必要な情報を読み取り、政策により大名の力を抑え、幕府の力を強めたことを理解しているか」を評価する。<br>【知―①】 |
| ③江戸幕府が外国に対して行った政策を調べることを通して、鎖国政策・キリスト教の禁止など海外との交流を制限する政策を進めたことを理解できるようにする。<br><br>④江戸幕府が人々に対して行った政策を調べることを通して、武士を中心とする身分制が定着したことを理解できるようにする。 | ○江戸幕府が外国に対して行った政策を各種資料で調べる。<br><br>○江戸幕府が人々に対して行った政策を各種資料で調べる。 | ◇鎖国令<br>◇キリスト教の禁止<br><br>◇5 人組<br>◇身分制<br>◇庶民の暮らし | ・発言やノートの記述から、「資料から必要な情報を読み取り、鎖国政策・キリスト教の禁止など海外との交流を制限する政策を進めたことを理解しているか」を評価する。<br>【知―①】<br>・発言やノートの記述から、「資料から必要な情報を読み取り、武士を中心とする身分制が定着したことを理解しているか」を評価する。<br>【知―①】 |
| ⑤交流を通して、これまでの学習を振り返り、江戸幕府の政策を関連付けたり、総合したりしてこの頃の世の中の様子を考え、適切に表現できるようにする。 | ○江戸幕府が行った政策で争いが少なくなることに影響を与えた政策をグループで話し合し、全体で共有する。 | ◇これまでの学習をまとめた模造紙 | ・発言やノートの記述から、「交流を通して、これまでの学習を振り返り、江戸幕府の政策を関連付けたり、総合したりしてこの頃の世の中の様子を考え、適切に表現できているか」を評価する。<br>【思―②】 |
| ⑦単元を振り返り、単元を見通す学習問題についてワークシートにまとめ、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。 | ○学習したことを関係図や年表などに整理し、学習問題に対して考えをまとめる。 | ◇１時間目から６時間目までに扱った資料 | ・発言やノートの記述から、「調べたことを　　ワークシートにまとめ、武士による政治が安定したことを理解しているか」を評価する。【知―②】 |

## ３．本時について

（1）目標　交流を通して、これまでの学習を振り返り、江戸幕府の政策を関連付けたり、総合したりしてこの頃の世の中の様子を考え、適切に表現しようとしている。

（2）展開

| 学習活動 | ・予想される児童の反応（☆教師の発問） | 支援（○）と評価規準 |
|---|---|---|
| 大名への政策、外国への政策、庶民への政策について調べ学習を行った。調べた政策をもとに、どの政策が争いが少なることに影響を与えたのか反しあって考えるという学習計画が立っている。 | | |
| 争いが少なくなるのにより効果的だった政策はなんだろう。 | | |
| １．前時までの振り返り | ・私は参勤交代が一番影響があったと思う。大名の負担が大きくて、争いどころではなかったと思う。<br>・鎖国令だと僕は思う。新しい考えが入ってこなければ、今の仕組みがいいと思うんじゃないかな。 | ○様々な政策を行っていたことが分かるように前時までに調べたことをまとめた模造紙を掲示しておく。<br>○話し合いに安心して臨めるように前時までのワークシートにコメントを入れて価値付けておく。 |
| これまでの学習でまとめた模造紙<br>「大名への政策」「外国への政策」「人々への政策」 | | |
| ２．より効果的だと思う政策をグループで話し合う。 | ・やっぱり参勤交代で大名の負担を増やしたことだと思う。<br>・身分制で武士の世だと示したことで市民の反乱が減ったんだと思う。<br>・争いが減ったのは、身分を分けたり外国から新しい考え方が入るのを防いだりしたからじゃないかな。 | ○各グループに話型を提示して意見を伝えることが苦手な児童も話し合えるようにしておく。<br>○思考ツールを使うことで、自分たちの話し合ったことが視覚的に分かるようにする。 |
| ３．話し合ったことを全体で共有する | ・参勤交代という意見が多かったけれど、理由は違ったな。<br>・自分は鎖国令だと思っていた。グループでの話でも鎖国令という人がいて自信になった。<br>大名証人制度廃止<br>**☆どうして人質をとる必要がなくなったのかな。** | ○考えを深めたり変容したりできるように、自分の意見と比べながら全体で共有していけるようにする。 |
| ４．学習を振り返る | ・話し合いをしてみて、どの政策も大切で、一つ一つが争いを起きにくくしていると思った。<br>・一つではなくすべての政策があったから争いが少ない世の中になったのだと思う。 | 【思―②】<br>発言やノートの記述から、「交流を通して、これまでの学習を振り返り、江戸幕府の政策を関連付けたり、総合したりしてこの頃の世の中の様子を考え、適切に表現できているか」を<br>○自分の考えを自信をもって書けるように、振り返りシートを数種類用意しておく。 |

## ４．実践の実際

～これまでの学習内容～
日本にキリスト教が伝来し、国内に広がっていった。日本は群雄割拠の状態から織田信長が領地を拡大していき、豊臣秀吉が戦国の世を統一した。豊臣秀吉は刀狩りや検知などの政策を進め、各国でバラバラだった仕組みをまとめていったんだ。

戦国の世の主な戦い　　江戸幕府の治世の主な戦い

①②【単元を見通す学習問題】
**江戸時代で争いが少ないのはどうしてだろう。（態①思①）**

前の時代の調べる視点が使えそうだね！

抑えつけた政策が多かったのかな

### 大名への政策（知①）

③江戸幕府は大名に対してどのような政策をしたのだろう。

武家諸法度　大名配置　参勤交代　家光の言葉

*大名の配置や武家諸法度などの政治の仕組みを整えることで大名の力を抑えることができるようになったんだね。大名の負担を大きくし、幕府の力を強めたんだ。*

外国にはどんな政策をしたのかな？

人々の暮らしも負担が増えたのかな？

**江戸幕府は大名以外にも海外や庶民にも政策を行っているみたいだ！もっと詳しく調べよう！**

### 外国への政策（知①）

④⑤江戸幕府は外国に対してどのような政策をしたのだろう。

鎖国令　キリスト教の禁止

### 庶民への政策（知①）

④⑤江戸幕府は人々に対してどのような政策をしたのだろう。

５人組　身分制　庶民の暮らし

調べて分かったことをつなげながら争いが少なくなった理由を考えよう！（思②）

⑥江戸幕府が行った政策で争いが少なくなることに影響を与えた政策は何だろう。
鎖国をすることでキリスト教が全国に広がるのを防ぎたかったんだ。
厳しく身分を決めることで反乱を起こさないようにしたかったのかな。

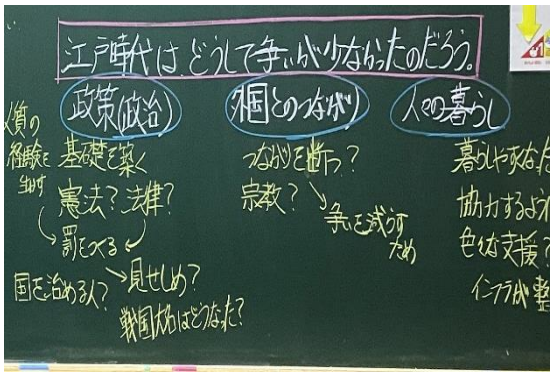
大名証人制廃止

⑦【単元をふり返る学習問題】
**江戸時代で争いが少ないのはどうしてだろう。（知②）**

大名の配置や参勤交代などを行い、徳川家の力を示して反乱がおこらないように政治を行っていた。外国との交流を制限したり、キリスト教を禁止したりして争いが起きず、幕府が利益を得て力を強くすることができるような仕組みを作っていったんだね。庶民は５人組などの仕組みの中で確実に年貢を払うようになった。幕府の様々な政策によって江戸幕府の力が強くなり、争いが少なくなることにつながったんだね。

## ５．考察

**【視点（１）　「調べたい！」が生まれる魅力的な教材（教材化）】**




**成果**

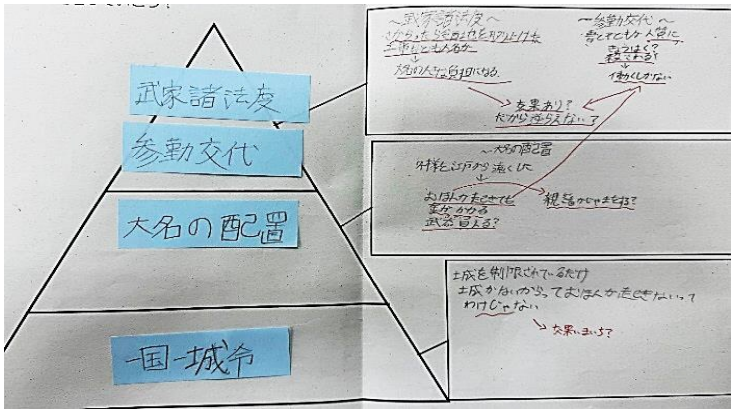
・戦いの数を取り上げたことで前の時代と比較し、江戸時代が安定した理由を探る学習問題につながった。

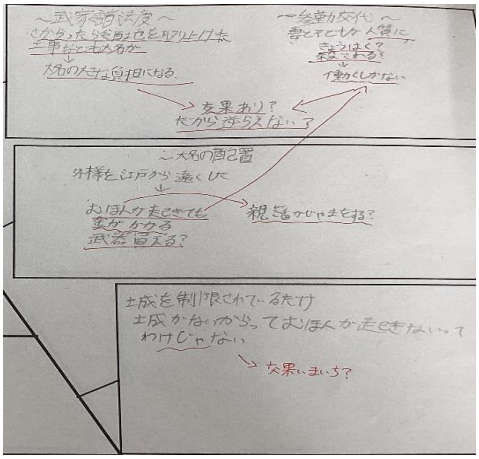
・既習を生かした視点によって、単元の見通しをもち自ら調べようとする姿につながった。

**課題**

・「なぜ」という文言より「どのように争いを～」とすることで幕府の政策や意図をより深く調べようとする姿につながるのではないか。学習問題の文言を大切にしながら学習を進めていくことで調べるべき内容を焦点化することができるのではないか。

**【視点（２）調べ学習と考えをまとめるための多様な学習活動（学習活動）】**



**成果**

・チャートに整理していくことで江戸時代の安定について自分の言葉で語れるようになった。（参勤交代によって大名の経済力が弱まり、争いが起こせなくなった、等）

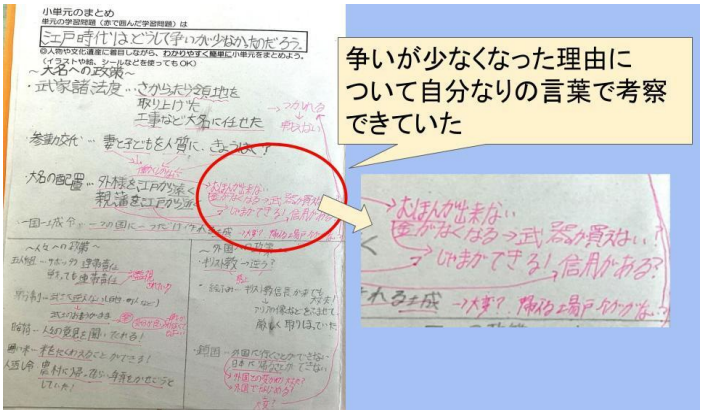
・個人の調べ学習の時間の中で自然と他の児童と交流する姿が見られた。調べ方が分からなかったり、自分の意見に自身がもてなかったりした児童もそれによって自分の考えをもつことができるようになった。

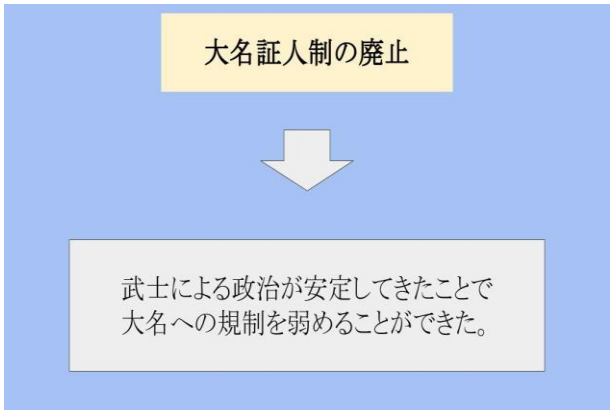
**課題**

・個人の調べ学習では小学校の学習内容を超えるような政策も出てくる。調べる方法を限定すると児童の意欲を削ぐことにつながるため、単元を見通す学習問題に立ち返りながら「幕府が争いを減らすためにどのようなことをしたのか」という問い返しが必要である。徳川家康、徳川家光という人に着目して調べていくことで政策の範囲を絞ることができたのではないか。

・児童が自分の学びを振り返ることでさらに詳しく調べるのか、幅広く調べるのか考えることができるようにすることが必要。友達との交流の中で「もっとこれについて調べてみよう」という話が出てきた。それを自己調整と捉えるのか。

**【視点（３）わかったことを共有して学びを深める学習活動（学習活動）】**




**成果**

・個々の調べた内容を交流することで自分では調べることができなかったことを補うことができた。調べることが苦手な児童もいるため、すべての児童が共通の土台に立つためにも話し合い活動が必要である。

・追加資料を出すことで調べた内容を交流するだけではなく、話し合う必要感を得ることができる。学習意欲を高めるためにも、学習問題を精査して話し合いに繋げ、資料で児童の問題意識が高まるような手立てをとる必要がある。

**課題**

・話し合いに対してどのように必要感をもたせていくのか、様々な手段を検討していくことが大切である。

・チャートを使ったことで、ランキング付けに固執する児童も見られた。政策の効果について話し合えるように本時のめあてに立ち返る時間も必要だった。

**【本実践を通して】**

今回の実践では、単元の中に個人で調べる時間と学級全体で調べ、交流する時間を設定した。すべて自分で調べるのではなく、全体で調べることで調べ方や何を調べるのかが明確になると考えたためである。調べる内容に差が生まれたり、調べることが難しかったりする児童もいる。全ての児童が学習に参加できるようにするために本実践のような手立てをとることも効果的であると考える。

調べる力だけではなく、「友達と共に学ぶ」ことのよさや話し合う必要感については今後も実践が必要であると感じた。調べることを共有するだけでは話し合うことに対する意欲が生まれにくい場合がある。本実践ではそこに問題意識が高まるような追加資料を用意したり、ワークシートを話し合って仕上げたりする活動を行った。しかし、ワークシートの形や資料の扱い方によっては学習のねらいからそれてしまうことがある。今年度は話し合いが深まる＝新しい考えが生まれたり、自分の考えに自信をもったりする姿とし、それを目指して実践を行った。話し合ってよかったと感じることができるような学習活動について学習問題の内容を含めてさらに検討していきたいと考える。

単元の終末には
「政治が安定し平和だから様々な文化が生まれたのでは？」
と次の単元につながる疑問が出てきた

単元の導入で「争いが減った」とすることによって次の単元でも「平和な時代だから浮世絵や学問などの文化が花開いたのでは無いか」と考える児童が出てきた。江戸時代の特徴をつかみ、理解が深まっていたと考えられる。単元のつながりを意識することも大切であると感じた。

# 第 24 回神奈川県小学校教育研究会社会科部会「川崎大会」報告

**実施日：令和 8 年 1 月 21 日**

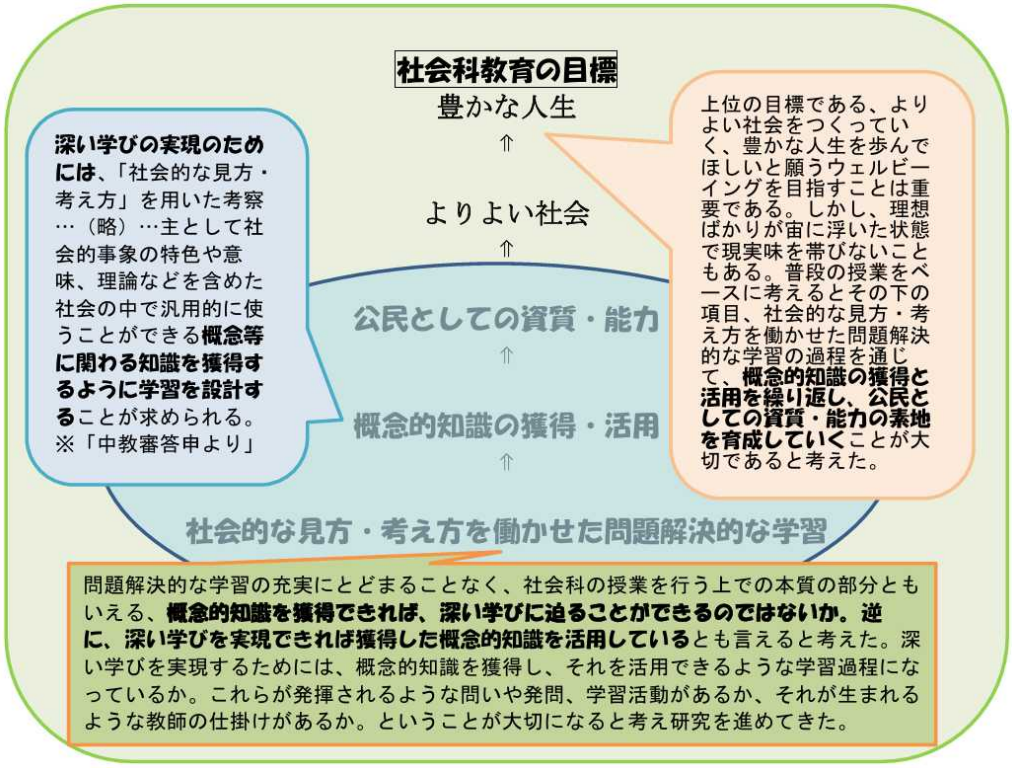
**◆川崎市立小学校社会科教育研究会　研究主題**

**ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科教育**

**◆令和 7 年度 川崎市立小学校 社会科教育研究会の重点目標**

**深い学びの実現に向けた一人一人が生きる社会科学習**

子どもが自ら学び、社会と関わり、主体的に行動する力を育むためには、概念的知識の活用が重要な役割を果たすと考えた。社会的な見方・考え方を働かせた問題解決的な学習のプロセス（社会の仕組みを理解する過程）を通じて、概念的知識を獲得・活用する中で、自分の考えを自由に表現しながら、お互いに高め合う集団をつくり、一人一人が生きる社会科学習を目指していく。




◎各学年部会の実践報告

| 学年 | 会場校 | 単元・授業者 | 講師 |
|---|---|---|---|
| **3** | 川崎市立<br>下平間小学校 | 「市の移り変わり」<br>～100 年の歩みと未来への 1 歩～<br>宇賀神 英　教諭 | 川崎市総合教育センター<br>カリキュラムセンター<br>担当課長　　鈴木 正博　先生 |

３年部会では、研究の重点における具体の姿を**「自らの学習を調整し、概念的知識を獲得・活用していく姿」**とした。研究の視点を２つ設定した。視点①「追究意欲が生まれる学習過程」では、一人一人の追究に耐えうる「問い」を設定すると共に必要に応じて単元構想を修正することで「社会的事象の見方・考え方」を働かせることができるようにした。視点②「一人一人が学習を調整する指導と評価」では、丁寧な見取りをして、教師が意図的に関わっていくことで、多様な他者と協働したり自らの学習を調整したりする良さを感じられるようにした。本単元においては、「単元の問い」の解決に向けて、「時期や時間の経過」や「位置の空間的な広がり」の見方を働かせながら、仲間と共に追究・考察できるようにした。

本時では、わかってきたことをまとめた年表を基に、考えを伝え合う活動を行った。「単元の問い」の解決に向け、一人一人が「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら、自分の考えを説明する姿が見られた。研究協議や指導講評の中では、「市の移り変わりの教材化」や「教師の見取り」、「概念的知識」などについての話題が取り上げられた。

| 学年 | 会場校 | 単元・授業者 | 講師 |
|---|---|---|---|
| **4** | 川崎市立<br>久地小学校 | 「自然災害にそなえるまちづくり」<br>～今後起こりうる自然災害から人々を守るために～<br>野土谷 淳　教諭 | 川崎市総合教育センター<br>カリキュラムセンター<br>指導主事　齋藤 靖拡　先生 |

４年部会では、研究の重点における具体の姿を**「主体的に学び続け、社会の仕組みやつながりを理解し、社会の一員としての自覚を高める子」**とした。４年部会では研究の重点目標に迫るために３つの視点を設定した。視点１「学びを追究する単元づくり」では、必要感・切実感があり、選択・判断に向けて追究できる問いや「地震災害」と「風水害」への対処と備えを比較・関連・総合しながら学ぶ学習過程を設定した。視点２「子どもたちが主体的に学び続けるための環境づくり」では、社会科の年間の学習内容を子どもたちと共有し、子どもの提供資料を生かし、学習を展開した。また、一人一人の興味や関心・必要感に応じた資料や支援、学習方法を自ら選択できるように、教室内に多様な場を設けた。視点３「学びをつなぐ」では、社会科の系統を子どもたちにも意識できる手立てを講じ、これまでの学習で働かせた見方・考え方を活用して思考できるようにした。

本時では、子どもたちが問いの解決に向けて自分の必要感に応じた場に行ったり、既習や資料を関連付けて共通点を見出したりしていた。協議会では、子ども自身が多様な学びを選択できることや複数の事例を扱うことのメリット・デメリットなどが話題となった。

| 学年 | 会場校 | 単元・授業者 | 講師 |
|---|---|---|---|
| **5** | 川崎市立<br>西菅小学校 | 「環境をともに守る」<br>～川崎市の公害と改善に取り組んできた人々～<br>清野 貴史　教諭 | 川崎市総合教育センター<br>カリキュラムセンター<br>室長　鵜木 朋和　先生 |

５年部会では、研究の重点における具体の姿を**「問いを追究し、ともに学び、よりよい社会や自分の在り方を考えようとする子」**と設定した。概念的な知識の獲得と活用を繰り返し、深い学びを実現するためには学習過程が大切である。特に「学び続ける姿」を重点に置いて、研究の視点を２つ設けた。視点１の「問題解決の意識が継続する問いの設定」では、考えをもう一度問い直すような事実を提示することで、社会的な事象の背景にある人の思いに触れ、より明確に社会的事象をとらえられるようになる知識を獲得できると考えた。視点２の「互いの考えの価値に気づき、ともに学ぶ集団の育成」では、既習の知識を関連づけて考えている姿や、考えようとしている姿を教師が意図的に価値づけ、それを全体に広げることで、子どもたちが互いに価値づけ合う姿を目指した。

本時の授業では、「工場」「市民」「市」の取組から、協力関係についてまとめようとする姿が見られた。川崎市の公害は、「三者が一体となって解決した」「簡単に解決したわけではなかった」ことに気づいているグループもあった。協議会では、グループ内の気づきをどのように全体に広げていくのか、教師の出番について、話題に上がった。

| 学年 | 会場校 | 単元・授業者 | 講師 |
|---|---|---|---|
| **6** | 川崎市立<br>橘小学校 | 「歴史を学ぶ意味を考える」<br>～未来への One Voice～<br>佐藤 壮太　教諭 | 川崎市立子母口小学校<br>校長　南谷 隆行　先生 |

６年部会では、研究の重点における具体の姿を**「自ら課題を見つけ、知識や技能を活用して、他者と協働しながら新たな概念や価値に気付き学ぶ姿」**とした。それをもとに部会で検討を重ね、視点を２つ設定した。視点１「深い学びを実現させるための問い」では、社会科の学習において深い学びを実現させるには、良質な問いは欠かせないと考えた。子ども自身が探究したいと思い、学習を進めていく動機となることを期待した。

視点２「学びの深まりを実感する振り返り」では、振り返りは、深い学びを実現させるための学習活動として位置づけた。多様な考えをもとに再考したことを言語化することで、学びの深まりを自覚できると考えたためである。そのために、振り返りの視点を意図的に設け、スプレッドシートを活用し、継続的な記録をした。

本時では、未来志向の問いを設定することで、既習を生かした考えを多くの子どもがもち、「考えたい」という動機に繋がっていた。また、継続的な振り返りが子どもの考えの礎となっていた。さらに深い学びを目指すためには、教師が思考を促すような問い返しやファシリテートをしていきたい。

# 第６２回　神奈川県小学校教育研究会　中央研究大会　川崎大会報告

大会主題
「基礎基本を身につけ、自ら学び、他者と協働し、
心豊かに生きる子どもの育成をめざした小学校教育の創造」
～「見方・考え方」を働かせて、考えることができる子どもの育成～

日時：令和８年２月４日（水）
場所：川崎市教育会館
川崎市立小杉小学校

〇社会科分科会報告
第一提案
テーマ：「児童の問いから集団思考が生まれる授業づくり
～自ら知識を獲得し、追求を続ける子を育む～」

藤沢市立村岡小学校 教諭 菱伊 諒

## Ⅰ 主題設定の理由

６年生の歴史の学習における、学習内容と子どもたちの距離を近づけ、知識を自ら獲得できるようになることを目指して本主題を設定した。

## Ⅱ 研究の内容

１ 子どもたちが問いを生み出すために

多くの子が初めて触れる歴史上の出来事や人物に対してすぐに疑問を持つことは難しい。そこで単元の最初に知識をおさえる時間と歴史上の人物や出来事に注目して問いを作る時間を設定した。

２ 知識を獲得するために

教師主導で子どもが知識を受け取るのではなく、毎時間の問いを解決するために、「個別の解決の時間」と「協働的な解決の時間」を設定した。その際に話し合いの根拠として知識を使用することでより深い理解へとつながった。

３ 集団思考で考えを深める

学習を進める中で子どもたちの問いが解決されていく。その中でもどうしても解決されない問いや新たな問いが生まれていく。そこで毎時間の振り返りや授業中の意見からクラスで話し合いのテーマを設定した。話し合いを行うことで児童の学習意識が「覚える」から「伝える」に変容し、自分の考えを伝えるために学習内容との距離が深まり、知識が自然と身についていく姿が見られた。そして、異なる考えに触れる中で思考が深まっていった。

## Ⅲ まとめ

歴史単元は子どもたちの生活から遠くなりがちだが、本実践では「自ら問いを生み出すこと」、「問いを解決するために追求すること」を通して学習内容との距離を縮め、知識の獲得を図った。当時の人の思いや出来事に注目し、問いを精査する活動や集団で考えを話し合う活動は、不透明な未来や多くの価値観が存在する現代を生きる子どもたちに必要な、自ら解決する力へとつながると考えている。

第二提案

テーマ：「共に生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習
～資質・能力の育成に向けた深い学びの実践のためのよりよい学習活動の工夫～」

川崎市立生田小学校 教諭 柴田 尚希

## Ⅰ 主題設定の理由

川崎市小学校社会科研究会では昨年度より、「資質・能力の育成に向けた深い学びの実現のためのよりよい学習活動の工夫」を研究の重点として研究活動を進めている。それを踏まえ、これまで大切にしてきた「多角的に事象を捉える力」や、「社会の一員として、よりよい社会を主体的に築いていく力」の育成に加え、「主体的に学び続ける学習者」の育成を目指した。

## Ⅱ 研究の内容

「多様な価値観を尊重し、自立して学び、よりよい社会の在り方を考えようとする子ども」を目指し、以下の３点を研究の視点として設定した。

１ 問題意識を継続する社会的事象との出会い子どもたちの生活に身近な販売業であるコンビニエンスストアを題材に設定し、売り場面積に制約がある中で、どのように売り上げを伸ばしているのかに着目させた。これにより、「情報活用」の視点から、社会的事象と驚きをもって出会うことができるよう工夫した。

２ 子どもたちが自ら動き出す学習活動の工夫

教師が用意した資料に加え、様々な調べ方ができるよう教科書などの内容と関連をもたせながら単元を構成することで、子どもが自ら選択し、調べることができるようにした。

３ 社会の未来について多角的に考え話し合う

様々な人の視点に立ちながら、これからの情報や ICT 活用の在り方について考えることで、平和で民主的な社会を担う主体としての資質・能力を高めることができるようにした。

## Ⅲ まとめ

本実践では、身近なコンビニエンスストアにおける情報活用に関心をもち、主体的に調べ学習に取り組む姿が見られた。単元終盤には障がいのある方や高齢者等の視点に立つことで、ICT が利便性の向上だけでなく社会課題の解決にも役立つことに気づき、その利点と課題の両面を踏まえて、今後の ICT との関わり方について自らの考えを深めていた。一方で、「自立した学習者」を育てるというテーマについては、十分に迫ることができなかった。「学びの場づくり」を通して、自己選択や自己決定の機会を意図的かつ継続的に設けていくことの重要性を再認識した。

令和７年度　神奈川県小学校教育研究会　社会科研究部会
部会長・担当者名簿

| 地区 | 役職 | 氏名 | 学校名 |
|---|---|---|---|
| 横浜 | 校長 | 野間　義晴 | 横浜市立元石川小学校 |
| 川崎 | 校長 | 滝口　太志 | 川崎市立御幸小学校 |
| | 校長 | 南谷　隆行 | 川崎市立子母口小学校 |
| 相模原 | 副校長 | 中島　理志 | 相模原市立大野台小学校 |
| | 校長 | 嵜山　浩人 | 相模原市立川尻小学校 |
| 横須賀 | 校長 | 浦嶋　愛 | 横須賀市立野比小学校 |
| 三浦 | 教諭 | 宇都宮　洋子 | 三浦市立岬陽小学校 |
| | 教頭 | 瀧澤　和人 | 三浦市立岬陽小学校 |
| 葉山 | 教諭 | 菅野　善一 | 葉山町立長柄小学校 |
| | 教頭 | 橋本　弥恵 | 葉山町立長柄小学校 |
| 鎌倉 | 教諭 | 城間　和昌 | 鎌倉市立西鎌倉小学校 |
| | 校長 | 河合　幸子 | 鎌倉市立富士塚小学校 |
| 藤沢 | 総括教諭 | 川野　真一郎 | 藤沢市立善行小学校 |
| | 校長 | 丸谷　英之 | 藤沢市立大越小学校 |
| 茅ケ崎寒川 | 教諭 | 神代　裕之 | 茅ヶ崎市立香川小学校 |
| | 校長 | 松永　忠弘 | 茅ヶ崎市立香川小学校 |
| | 校長 | 柴田　貴行 | 茅ヶ崎市立東海岸小学校 |
| 大和 | 教諭 | 古本　健優 | 大和市立文ヶ岡小学校 |
| | 校長 | 塩原　貴明 | 大和市立福田小学校 |
| 座間 | 教諭 | 福島　裕太 | 座間市立立野台小学校 |
| | 校長 | 栗林　祥子 | 座間市立東原小学校 |
| 海老名 | 教諭 | 渡邊　泰紀 | 海老名立有鹿小学校 |
| | 教頭 | 内山　大輔 | 海老名市立有馬小学校 |
| 綾瀬 | 教諭 | 船山　あかり | 綾瀬市立寺尾小学校 |
| | 教頭 | 飯島　加奈子 | 綾瀬市立早園小学校 |